

全船協

第126号 2014年8月号 夏季号



一般社団法人 **全日本船舶職員協会**

JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION

URL <http://www5b.biglobe.ne.jp/~zensenk/>

室町海運株式会社

代表取締役社長 佐藤裕信

〒101-0047 東京都千代田区内神田二丁目5番5号
城南ビル5階
電話 (03) 5298-2570
FAX (03) 5298-2575



北星海運株式会社

代表取締役社長 佐藤有造

〒104-0031 東京都中央区京橋2丁目18番2号
電話 (03) 3564-5050(代) FAX (03) 3567-1657

株式会社 コトラシステム

代表取締役 土屋正徳

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13
日本橋鮎佐ビル3階
電話 (03) 3245-6975
FAX (03) 3245-6980
E-mail: cotrasystem@nifty.com

山友汽船株式会社

代表取締役社長 望月正信(広島N-71)

顧問 岩江成徳(広島N-55)

〒650-0015 兵庫県神戸市中央区多聞通2丁目1番1号
多聞プラムビル2階
電話 (078) 371-5505
FAX (078) 371-5520
Email: sanyuksn@violin.ocn.ne.jp

一般社団法人 日本船長協会

会長 小島茂

〒102-0083 東京都千代田区麴町4丁目5番地
(海事センタービル5階)
電話 (03) 3265-6641
FAX (03) 3265-8710
<http://www.captain.or.jp>

一般社団法人 海洋会

会長 豊田耕治

〒102-0083 東京都千代田区麴町4丁目5番地
(海事センタービル6階)
電話 (03) 3262-8632
FAX (03) 3262-6909



一般社団法人 日本船舶機関士協会

会長 平井奉行

〒102-0083 東京都千代田区麴町4丁目5番地
(海事センタービル5階)
電話 (03) 3264-2518
E-mail: me-honbu@marine-engineer.or.jp
URL <http://www.marine-engineer.or.jp>

人と海に未来を

公益社団法人 日本海難防止協会

会長 前川弘幸

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目1番3号
磯村ビル6階
電話 (03) 3502-2231
<http://www.nikkaibo.or.jp>
E-mail: 2231jams@nikkaibo.or.jp

- ・海技教育支援事業
- ・奨学金貸与事業
- ・帆船海王丸体験航海事業 等

公益財団法人 海技教育財団

会長 宮原耕治

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4
電話 (03) 3288-0991 URL <http://www.macf.jp>

海上の友

船員と船員家庭のタブロイド版新聞 月3回1.11.21日発行
年間購読料 本体価格(8,460円) + 税 送料別

海と船の雑誌 **ラメール**

年6回奇数月発行
年間購読料 本体価格(4,002円) + 税 送料込

お申し込み
お問い合わせ **(公財)日本海事広報協会**

〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6
電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580

目次

表紙・・・(新しく就航した) 大成丸	1 頁
巻頭言・・・84年の伝統を背負って	4 頁
会長 岩田 仁	
平成26年度通常総会報告	5 頁
平成26年度第1回理事会 議事の概要	9 頁
平成26年度第1回臨時理事会 議事の概要	10 頁
平成26年度 会長・執行役員の紹介	11 頁
合同進学ガイダンスが開催される	12 頁
海上の安全を願って講話等を実施	13 頁
事務局長 七呂光雄	
第31回横浜港カッタレース報告	15 頁
横浜支部長 相川康明	
第15回 イレブンマリナーズ杯開催	18 頁
第49回 五商船高専漕艇大会	19 頁
海事ニュース	21 頁
北から南から 富山高等専門学校	24 頁
鳥羽商船高等専門学校	27 頁
広島商船高等専門学校	31 頁
大島商船高等専門学校	34 頁
弓削商船高等専門学校	38 頁
本部・支部だより	42 頁
お知らせ	44 頁
会費納入者御芳名	48 頁
海の図書室	49 頁
時事寸評	50 頁
表紙写真解説 新大成丸	50 頁
編集後記	50 頁

84年の伝統を背負って

会長 岩田 仁 鳥羽80期E

今年5月の総会後の臨時理事会で会長に推挙され就任した岩田です。浅学非才の身でこのような大役を果たせるのか懸念もありますが、会員諸氏の協力とお力添えをいただき職務を全すべく決意を新たにしているところです。

当協会は前任である内田先輩が会長に就任した平成22年夏に横浜MM21の日本丸メモリアル・パークで創立80周年を祝賀する「全船協ウイーク IN 帆船日本丸」を開催、また、横浜みなと博物館ロビーでは全船協80年の活動を辿るパネル展を開き海事関係者に好評を博しました。改めて、先輩の足跡をたどりながら多くの先輩たちが築き上げた伝統に恥じぬよう協会の発展に貢献すべく努める所存です。

今回の交代人事は会長と専務理事が同時に代わることとなりました。専務理事と力を合わせ会員の期待に応える協会運営に努めたい。

前任の会長、専務のお二方には一般社団法人への移行に際し多大のご苦勞を拝し、全船協に新たなレールを敷いていただいたこと深く感謝申し上げます。

全船協では昨年夏、会員意識のアンケート調査を実施し会員諸氏よりの多くの意見を集め、分析を進めてきた。分析結果から見えてきた「全船協再生」の鍵は協会運営収支の健全化対策に尽きます。

具体的には・海事に関する公益事業の取り組み・会員相互の情報交換と親睦・商船教育の充実支援・5商船高専同窓会連合会的な役割の強化などであり、これらはすでに本年度の活動方針に盛り込んでいる。

当協会の会員は外航船の職員を主体とし、その会費で運営されているが、外航海運における日本人船員の減少は壊滅的であり、今後、大幅に恢復される見通しも立っていない。現在の5高専商船学科の卒業生も内航フェリーなどに目が向いており内航海運、また陸上で活躍している同窓諸氏へ目を転じ会員獲得運動を幅広く展開せねばならないと考えております。

アンケートで寄せられた会員の声にこたえるべく実施可能な事から順次着手しているが、着任早々に本部事務所の事務スペースを見直し会長室を会員相互の歓談室専用として使えるよう模様替えしてみた。会長が事務局と机を並べることにより本部事務局全般の意志疎通の改善にも繋がることを期待しています。また、新たに次の点も実現したいと準備を進めております。

まずは、アンケートにもあった本部事務局の業務内容がわからないとの声に対する処置として本部業務の洗い出しによる事務の見える化、合理化・効率化を図る。仲間の社内監査のプロに協力を仰ぎ進めるべく準備中です。

次に本部事務所と神戸支部にある先輩たちの80年間の活動資料の整理と見える化。どんなものがどの程度あるかわかる人が無くなって久しい。多くのキャビネットに収まって整理されていないため、興味ある会員にも開放できていない。さしあたり目録だけでも作成しホームページにアップを急ぎたい。最後は会員情報の改訂と充実。会員のデータも陳腐化してきておりデータの保護と保存の面からソフトそのものの見直しも合わせ着手しました。

同じ船乗りの仲間とし「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の精神で事務局全員の力を結集し世話になった船員社会への恩返しに努めたく改めて、会員諸氏のお力添えをお願いします。



平成26年度 通常総会報告

開催日時 平成26年5月30日 [金] 15時00分～17時30分
開催場所 東京都千代田区神田神保町2-2-34 千代田三信ビル8階
一般社団法人 全日本船舶職員協会 会議室



出席者 議決権のある社員総数 679名
(本人出席 25名)
(委任出席 643名)
(書面表決 11名)

【内訳】

総正会員数の議決権の数 1210名
出席正会員数(委任状による者及び書面表決による者を含む)
出席理事 12名
出席監事 1名
理事・監事以外の出席者 666名

実出席者氏名

相川 康明、赤嶺 正治、岩江 成徳、岩田 仁、
内田 成孝、及川 武司、大賀 英朗、大西 正則、
沖川 守、小池 信雄、小松 和夫、小山 逸男、
七呂 光雄、田中 三郎、田中 善治、蔦正 昭、
富岡 栄一郎、福地 赳雄、本望 隆司、増田信、
松見 準、三輪 史郎、望月 正信、山田貢、
渡部 英利、

1 議事経過

定刻15時に本望専務理事が開会を宣し、次いで事務局から本日の通常総会は定款第18条の定足数を満たしたので有効に成立した旨を告げた。続いて定款第17条に基づく議長の選任を諮ったところ、三輪史郎氏が議長に選出された。

議長から挨拶の後、議事録署名人を指名したい旨

を述べたところ相川・大賀両理事から署名人申し入れがあり、また議長一任の発言により議長から田中善治氏・富岡栄一郎氏が署名人候補として提示され採決したところ賛成多数で田中善治氏・富岡栄一郎氏を議事録署名人に選定した。同議事録署名人は、席上その就任を承諾した。



三輪議長

2 審議

第1号議案 平成25年度 事業報告(案)について

第2号議案 平成25年度決算(案)について

議長は、標記の議題について、事務局に一括して説明を求めた。専務理事本望隆司が、当期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)における事業状況を事業報告書及び附属書類により詳細に説明・報告し、さらに平成25年度公益目的支出額及び公益目的財産残額について説明し、下記の書類につき承認を求めた。

- ① 貸借対照表 ② 正味財産増減計算書
- ③ 財務諸表に対する注記 ④ 財産目録
- ⑤ 正味財産増減計算書予算対比
- ⑥ 事業別収支計算書

蔦監事は、上記書類を調査し正確適法かつ妥当であることを認めた旨を報告した。議長が賛否

を議場に諮り、賛成多数で可決した。

第3号議案 役員の選任及び解任について

議長は、標記の議題について、事務局に説明を求めた。

専務理事本望隆司から、代表理事、理事、及び監事全員が本通常総会の終結と同時に任期満了し、退任することになるので、その改選の必要があるため、次期役員候補として役員選考委員会の議を経て理事相川康明、赤嶺正治、岩田仁、及川武司、大賀英朗、加山文治、小池信雄、七呂光雄、田中三郎、富岡栄一郎、福地赳雄、松見準、三輪史郎、望月正信、山田貢、監事 亀山道義、渡部英利が立候補しているとの報告があった。

また、既に全ての役員について過半数の賛成が得られているので、一括して決議したいとの提案があった。

議長が賛否を議場に諮り、賛成多数で可決した。尚、出席した被選任者は全員、席上その就任を承諾した。また、本日本人欠席の加山文治については、既に承諾書が出ている旨、議長から報告があった。

第4号議案 その他

なし



出席した正会員の方々

3. 閉会

以上をもって議案全部終了し、次いで専務理事本望隆司から報告事項平成26年度事業計画及び予算説明の後、議長は閉会の挨拶を述べ17時00分散会した。

4. 平成25年度物故された方々

平成25年4月1日～平成26年3月31日

岩田 三次 (広島 N69期)

岩本 真輔 (弓削 N74期)
円間 幸一 (富山 N61期)
上総 正博 (鳥羽 N82期)
白井 信男 (弓削 N53期)
林 幹夫 (鳥羽 N65期)
堀口 隆 (その他校)
吉垣 実 (富山 N40期)

5. 祝電をいただいた方々

富山高等専門学校	校長	石原 外美 様
鳥羽商船高等専門学校	校長	藤田 稔彦 様
広島商船高等専門学校	校長	村上 定瞭 様
大島商船高等専門学校	校長	石田 廣史 様
弓削商船高等専門学校	校長	木村 隆一 様
(独)航海訓練所	理事長	飯田 敏夫 様
(一社)海洋会	会長	豊田 耕治 様
(一社)日本船長協会	会長	小島 茂 様
(一社)日本船舶機関士協会	会長	平井 奉行 様
日本水先人会連合会	会長	福永 昭一 様
(一財)海技振興センタ	会長	宮原 耕治 様
北斗会(富山高専同窓会)	会長	山口 光三 様
鳥羽商船高等専門学校同窓会	会長	菱田 司 様
広島商船高等専門学校校友会	会長	山本德行 様
川和会	会長	河合 道男 様
(株)商船三井	代表取締役社長	武藤 光一 様
(株)商船三井	専務執行役員	根本 正昭 様
日本海事新聞社	代表取締役社長	大山 高明 様
海文堂出版(株)	代表取締役	岡田 節夫 様

6. ご祝儀等いただいた方々

(一社)日本船舶機関士協会	様
(一社)日本船長協会	様
(一社)海洋会	様
日本水先人会連合会	様
独立行政法人 航海訓練所	様
海文堂出版株式会社	様
(株)日本海事新聞社	様
岩江 成徳	様
福地 赳雄	様

懇親会の開催

平成 26 年 5 月 30 日（金）18 時より全船協本部において、総会後の懇親会を開催した。

来賓として一般社団法人 海洋会 豊田会長様、一般社団法人日本船舶機関士協会 井手副会長様、一般社団法人日本船長協会 小島会長様、日本水先人会連合会 福永会長様、独立行政法人航海訓練所 飯田理事長様及び同伴の方々のご列席をいただき、また海文堂出版、日本海事新聞社、日本海事広報協会、内航新聞社からの参加をいただいた。

来賓の御挨拶に続き、機関士協会の井手副会長に乾杯のご発声をいただき、和やかに懇親が進められた。

・全船協岩田会長挨拶

本日は当協会の懇親会にご出席いただき厚く御礼申し上げます。

協会は役員改選の年度に当たるため、先ほど、総会後に臨時理事会を開催し、新役員を選出しましたのでここに紹介いたします。

内田前会長の後を受け会長を務めることになりました岩田です。よろしくお願ひします。

新副会長に、赤嶺理事、と富岡理事が就任いたしました。また、本望元専務理事の後をうけ新専務理事に及川理事が就任いたしました。事務局長の七呂理事は留任となりました。

このメンバー 5 名と、他 10 名の理事で力を合わせ、これから 2 年間 全船協の事業をすすめてまいります。当協会の歴代会長は皆さまも御存知のように錚々たる人たちがばかりであり、私のような浅学・非才の者が会長職を全うできるか胸を痛めております。会員の皆様のご協力とお力添えと、また、本日出席の関連海事団体の皆様のご指導とご鞭撻を頂きながら会長職を全うしたいと決意しているところでございます。

当協会は一昨年の平成 24 年度に一般社団法人として新たにスタートしたわけですが、一般社団法人

の認定を受けるに際しては前任の内田会長と本望専務理事には多大なる労力を傾注して頂きました。

この席をお借りしお二方には心より御礼を申し上げます。

内田前会長が就任した平成 22 年夏、MM21 の「横浜みなと博物館」で創立 80 周年記念事業として、全船協 80 年の活動を振り返る、パネル展を開催いたしました。

あれから 4 年たちましたが、次の 90 周年を皆様と笑顔で乾杯し迎えられるよう老骨に時には鞭を当てながら、職務に取り組んでいく覚悟でございます。

本日は我々の仲間であるホテル・マリナーズコートからの、心をこめた料理の数々を用意いたしました。時間の許す限り歓談、くつろいでいただければ幸いです。

最後に、改めて、本日出席していただきました皆様方に御礼申し上げますと共にこれからもご支援とご協力を賜りますようお願いし、私の挨拶といたします。本日は出席ありがとうございます。

・海洋会 豊田会長

総会も滞りなく終了し、内田会長と本望専務理事がご退任され、新たに岩田会長と及川専務理事が選任され、誠におめでとうでございます。

全船協と海洋会は、それぞれ商船学校を出た者が海事専門家として社会貢献することを目的としています。が、職能団体ではなく活動のテーマが幅広い同窓生の賛同を得るのが難しく、また、社会も核家族化になって、若者が集まって活動しようとするような気運がなくなり、会の運営にもお互い苦勞しています。

新会長、新専務理事も苦勞されることと思いますが、海洋会は全船協としっかり連携し乗り切る決心ですので、宜しくお願ひいたします。



・日本船長協会 小島会長

フェリーの事故が発生しました。原因の調査報道より“ハインリッヒの法則”そのものだと思います。大きな事故のうしろには、多くの小さな問題が隠れている。いろいろな要因が重なりました。

訓練、船の設備、積みつけ方法、経営者、国の管理体制等、それぞれが重要課題であることを感じます。

また、このような事故が発生することによって、“若者の海離れ”がすすまないことを願っています。

日本船長協会は、小学校、中学校を訪問して子供達に海や船について話しをしています。

若者が海や船に、興味を持つように育っていくことが必要です。

皆様と一緒にやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。



・日本水先人会連合会 福永会長

官民挙げて若者が海・船に集まるように努力しているにもかかわらず、中々集まりませんが、空のパイロットも足りないとのことで海・空のパイロットとも不足という憂慮する事態となっています。

そんな中で商船系高専5校を訪問してきましたが、昔からすればかなり変わったなということを実感しました。特に女子学生が多く在学し華やかになっています。そして女子学生の方が元気があるように感じました。

水先人の世界にも既に5人の女子水先人が誕生しています。いずれ全船協も女子会員が増えてくる時が来るでしょう。いずれにせよ海運国家を支える若者達が海事産業にどんどん来てくれることを願ひ、又皆様方も若者達を海に、船に引っ張り込む役割を果たされることを願ひしています。



・航海訓練所 飯田理事長

全船協が創設されて80余年が経ちますが高専にな

って40年を大きく過ぎ、既全船協の歴史の半分以上を占める時代となっています。

5校で定員が200名で、そのうち180余名が練習船に來ています。

従来は卒業前の1年間に連続して乗船実習していましたが、昨年から2年で1ヶ月、4年で5ヶ月、6年で6ヶ月乗船するパターンに変更しています。

現在2年生の乗船が始まっていますが、練習船で感想文を書かせたところ船に乗りたくて商船学校へ入って乗船して船を知って、益々船に乗りたくなったと書いている学生もいます。そのような学生を最後までしっかり育てていきたいと練習船でも思っています。

皆様が学校に行かれたら、学校にもそのような指導を強く行っていただくように助言を頂ければと願ひし、そうすることで全船協の組織も増え活力ができればと思ひます。

今回お招きいただいた他の団体も若者を海・船に呼び込む活動を行っておられますが、練習船も寄港地で海・船のPRや学生募集活動を行っていますが、全船協ともタイアップしながら行っていきたいと思ひますので、今後もよろしくお願ひします。



・日本船舶機関士協会 井手副会長

平井会長が急用のため、私が代わりまして乾杯の音頭をとらせていただきます。

全船協の総会も無事終わり、おめでとうございます。

それでは、全船協の益々の発展と皆様方のご多幸とご健勝を祈って乾杯したいと思います。

乾杯!



平成26年度 第1回理事会

議事の概要

一般社団法人 全日本船舶職員協会

- 1 日時 平成26年 4月18日(金)
18時00分～21時20分
 - 2 場所 全船協本部会議室
 - 3 議長選出 内田会長(定款第39条による)
 - 4 書記任命 七呂事務局長(理事)
 - 5 出席者(順不同、敬称略)
 - 1)理事
出席者 11名
相川 康明、岩田 仁、内田 成孝、及川 武司、
大賀 英朗、小池 信雄、七呂 光雄、福地 赳雄、
本望 隆司、三輪 史郎、山本 徳行、
欠席者 3名
神谷 洋、田中 三郎、松見 準
 - 2)監事
出席者 なし(亀山監事は出席するための移動中に不慮の交通事故で参加不可能だった)
 - 6 定足数の確認 議長は、定足数を満たし成立を宣した(定足数 理事の過半数の出席、定款第40条)
 - 7 議事録署名人 定款第44条により、会長とする
 - 8 審議事項
 - 1号議案 平成26年度通常総会日時、場所、議案について (資料1号)
5月30日に開催する平成26年度通常総会の日時、場所、議案について提案があり、本部提案通り承認された。
 - 2号議案 平成25年度事業報告及び決算報告について (資料2号)
 - ① 平成25年度事業報告書(案)
 - ② 貸借対照表内訳表
 - ③ 正味財産増減計算書内訳表
 - ④ 収支計算書内訳表
 - ⑤ 財産目録内訳表
 - ⑥ 財務諸表に対する注記
 - ⑦ 監査報告書
 - ⑧ 公益目的支出実施報告書
若干の修正箇所があり再度会計顧問事務所に確認して処理することで承認された。
 - 3号議案 基本財産の運用方針について (資料3号)
現在運用しているユーロ円建パワーリバースデュアル債は固定金利期限となる7月に早期償還の可能性が極めて高く、その場合には現運用益レベルに近い他の債権への切替を実施し(会長の指示による)、後日理事会に報告するとの本部提案が承認された。
 - 4号議案 準会員の入会金について (資料4号)
準会員から入会金を徴収する本部提案に対し、他の学科生との比較や親の了承を得る難しさ等の意見があり、本部提案は撤回された。
 - 5号議案 役員候補者名簿について
候補者名簿は総会議案書として会員へ送付されるが、書式や内容について一部訂正の上、承認された。
- 以上で審議は終了し、議長は21時20分閉会を宣した。

平成26年度 第1回臨時理事会

議事の概要

一般社団法人 全日本船舶職員協会

- 1 日時 平成26年 5月30日(金)
17時00分～17時20分
 - 2 場所 全船協本部会議室
 - 3 出席者(順不同、敬称略)
 - 1) 理事総数 15名
出席理事 14名
相川 康明、赤嶺 正治、岩田 仁、及川 武司、
大賀 英朗、小池 信雄、七呂 光雄、田中 三郎、
富岡 栄一郎、福地 赳雄、松見 準、三輪 史郎、
望月 正信、山田 貢
欠席者 1名
加山 文治
 - 2) 監事総数 2名
出席監事 1名
渡部 英利
欠席監事 1名
亀山 道義
 - 4 決議事項
 - 1) 第1号議案 代表理事及び業務執行理事選定の件
 - 2) 第2号議案 副会長・専務理事選定の件
 - 5 審議の概要及び結果
 - 1) 開会及び成立の確認
事務局長 七呂光雄が司会者となり開会を宣し、理事出席者14名を確認の上、定款38条第5項により招集し、第40条の定足数を満たし本会が成立していることを報告した。
 - 2) 議長就任
法人法第79条第1項の定めにより、前代表理事 内田成孝が議長となり資料確認後、審議を開始した。
 - 3) 第1号議案
議長から本日開催の平成26年度通常総会において理事15名の選任があり、定款第25条第2項の理事選定の旨を述べ、福地理事から候補者提案を受け、出席理事の賛成多数により下記の通り選定した。
なお、被選定者はいずれもその就任を承諾した。
代表理事 岩田 仁
業務執行理事 赤峯 正治
業務執行理事 富岡 栄一郎
業務執行理事 及川 武司
 - 4) 第2号議案
代表理事に選定された岩田 仁が定款第39条に基づき議長となり、役付理事を選定したい旨を述べ、福地理事から候補者提案を受け、出席理事の賛成多数により下記の通り選定した。
副会長 赤嶺 正治
副会長 富岡 栄一郎
専務理事 及川 武司
- 以上で審議は終了し、議長は17時20分閉会を宣し解散した。

平成26年度 会長・執行役員の紹介

岩田会長



- ①東京都町田市
- ②鳥羽商船 E80 期 (1963 年卒)
- ③日本郵船機関長、探検客船「フロンティア・スピリッツ」、自動車専用船、タンカー、コンテナ船等機関長で乗船。
- ④(一社)全日本船舶職員協会
- ⑤善因善果、悪因悪果
- ⑥協会の再生

赤嶺副会長



- ①神奈川県藤沢市
- ②大島商船 N65 期 (1967 年卒)
- ③日本郵船船長、海洋地球研究船「みらい」初代船長、日本郵船歴史博物館館長代理
- ④大島商船高等専門学校客員教授
- ⑤和以て貴しとなす
- ⑥会員の意識調査結果を会の運営に反映させたい

富岡副会長



- ①神奈川県川崎市
- ②鳥羽商船 N88 (1973 年卒)
- ③三菱鉱石輸送 (株)、同社常務取締役
- ④(一社)全日本船舶職員協会
- ⑤不言実行・有言実行
- ⑥業務改善と会員ニーズの反映

及川専務理事



- ①千葉県野田市
- ②富山商船 E25 期 (1968 年卒)
- ③商船三井機関長、日本内航海運組合総連合会
- ④(一社)全日本船舶職員協会
- ⑤大局着眼小局着手
- ⑥会員の拡充

* ①現住所 ②出身校 ③略歴 ④現職
⑤座右の銘 ⑥抱負

合同進学ガイダンスが開催される

6月28日（広島）、7月6日（横浜）、7月20日（神戸）

日本船主協会主催、全船協後援、その他17関係機関が主催・後援する国立高等専門学校（商船学科）5校合同進学ガイダンスが、6月28日広島で開催されたのに引き続き7月6日横浜「氷川丸」で開催されました。広島では約90名、横浜では約45名（何れの会場も非公式数）の生徒、保護者、教師の方々が参加されました。

13時に開催主催者を代表して日本船主協会鈴木修副会長、氷川丸を代表して金谷範夫船長の挨拶があり、DVD「海の上のプロフェッショナル」が上映され、商船学科に関する学校側の説明が鳥羽商船高専伊東先生によって行われました。

休憩を挟んで日本長距離フェリー協会労務部会長田栄弘氏から業界説明があり、“卒業生のメッセージ”として商船三井勤務の二等機関士 梅田尚宏氏（富山・本会会員）及び二等航海士 渡邊真史氏（富山・本会会員）から先輩としての話がありました。

梅田さんからは、乗船した色々な船種や就航した航路の話、商船学校へ入った理由や船だけが職場でなく陸上勤務として陸上でも活躍できること、また、渡邊さんからは、海技者の魅力、特に長期休暇と給料、機関士の道を選んだ理由、学校・練習船での学生生活、船内の職務、船内の食事と余暇の過ごし方等を中学生や海に馴染みのない保護者でも分かりやすく説明がありました。二人からは、ガイダンスに参加した中学生に将来一緒に働ける機会を待っていますと熱いエールが

送られました。その後各校ブースごとに個別の説明会があり生徒・保護者等は、自分が希望する学校だけでなく、全学校のブースで先生方に色々な質問をされていました。

なかには女子中学生が保護者同伴で参加しており、今回開催された全船協総会后懇親会の来賓挨拶でも数多く述べられたように女子学生の商船系高専への入学が益々増えることを実感しました。

尚、本ガイダンス開催にあたりパンフレットの配布に協力された会員の方、各学校の同窓会関係者にお礼を申し上げます。とともに、来年は参加者が増加するよう事前の取組などを検討したいと思います。また、神戸での開催内容については、原稿締め切り日の関係で掲載できないことをお許しください。



梅田二機士



渡邊二航士



熱心に学校の状況を聞く生徒と保護者

海上の安全を願って講話等を実施

事務局長 七呂光雄

・安全への取組の切っ掛け

小生が安全に関して人前で講演することじたい多少なりとも気恥ずかしいところである。しかし今振り返って見ると商船高校を卒業し最高の海技免状筆記を取れば後は勉強する事は無いぐらいのつもりで就職し乗船して驚いたのは航海当直、荷役、整備など色々な船務を行っていく中で事故や災害が多く発生するという事実であった。

しかし当時は事故が起きれば“起こした者のミス”という風潮が強い中で、私は一冊の本と巡り会った。労働科学研究所に務めておられた狩野広之氏（1904年生）が執筆された「注意力」という本であった。人間の「注意力の4つの性質」、「認知のミス」、「物忘れ」、「疲労と注意力」、「単調と注意力」等に分かりやすく説明し、注意力の不足によって如何に事故が起きるか、また単に事故を起こした者だけの責任を迫るだけでは防止に繋がらないことが述べられていた。

・Aフェリー時代の安全衛生活動

この本の要点を自分の仕事に生かそうと思いAフェリー社の安全運航に関する部署で働いて来たが、同時に関連業務として船員災害防止協会の東京地区支部や運輸局ご指導の下の東京地方船員労働安全衛生協議会の事務局を担当し、船員労働安全衛生月間では色々な船種ごとの訪船機会に恵まれ各社によって安全への取組に大きな差があることも感じた。

更には船舶で事件事故が発生すれば法治国家である以上、事件当事者の刑事的責任が問われてしまうが、海上保安庁に関して安全対策委員会の委員となったり、海上保安協力員として活動する事で事件事故発生時の刑事・行政的対応も身に付ける事ができた。

過去の経歴について長々となってしまったが、このような経験もあって全船協事務局に入局してからも安全について話をして頂きたいという依頼があり、小生みたいな者の話で良いのかなとも思ったが、これまで航海訓練所練習船、運輸局や旅客船協会の乗組員研修会、更には船社からの講話依頼等で講演を行ってきた。

・Bフェリーでの安全講話

鹿児島にあるBフェリーは、5年位前に熊野灘で自社運航フェリーが強い追い波の中で急激に大傾斜を起こし海岸に任意座礁転覆する事故が発生している。同社とはAフェリー在職時から東京港フェリー安全協議会の事務局長としての立場からお付き合いがあり昨年秋に同社が実施した海難対応訓練に第三者評価を



Bフェリー社 乗組員研修会の参加者

してもらいたいとの依頼で訓練に参加したのに引き続き、今年2月に乗組員研修会を開催するので安全に関しての講演依頼があった。私は昭和50年代に海員組合鹿児島支部に在籍専従し同社の現場というものも把握していたし、それから約35年経って現場の雰囲気かどのように変わっているかという事で興味があった。講演は鹿児島の谷山港に停泊中の「フェリーN」で行ったが、講演前に1時間位時間があつたので船内の検船も行った。昭和50年代は離島航路の客船というイメージを乗組員にも感じたが、今はすっかり長距離フェリーの乗組員というイメージになっていた。会社内に横転したフェリーの写真が額に入れられ飾ってあるが「臭

いものに蓋をする」でない社風は立派であると感じた。この講演が終わったあと韓国で「セウォル号」の大海難が発生したが、何と今回講演した「フェリーN」の先船が韓国に売船され「セウォル号」になっていたのだ。

・練習船銀河丸での特別講義

航海訓練所とは、Aフェリー在職時から安全に関する協定を結びお互いの船を検船したりして安全運航技術を高める お付き合いをしてきた縁もあり全船協に入局してからは実習生に安全に関する特別講義の依頼を受け、これまでも何度か行ってきた。

今回も間もなくホノルル・シンガポールへの遠洋航海を間近に控えた実習生 143 名（商船高専 89 名、大学 29 名、海技大 25 名）に「職場での安全とヒューマンエラー」という題目で 120 分の講演を行った。練習船はあくまでも練習船であり、商船で起きやすい事故について学ぶ機会も少ないが、遠洋航海を終えれば学校を卒業する実習生に生々しい事故の状況を説明したい反面、これから遠洋航海に出航する直前の実習生に恐怖を植え込んでではなく「さじ加減」が難しい。

・アンケート結果

最期に小職の講演に関しBフェリーで行われたアンケート結果を紹介します。

- ・アンケート総数 48 名分
- 甲板部職員 10 名 甲板部部員 13 名
- 機関部職員 8 名 機関部部員 3 名
- 事務部職員 7 名 事務部部員 7 名
- 無記名 4 名



銀河丸特別講義での実習生

- ・「講話の理解度」 全体 70%
職員 62%、部員 78%、甲板部 82%、機関部 45%、事務部 70%
- ・「講話の興味度」 全体 60%、職員 62% 部員 52%、
甲板部 60% 機関部 55% 事務部 30%
- ・「講話についての意見・感想」
 - ・仕事に対しての安全意識がさらに強くなった。
 - ・安全に対する意識や ISO の知識等について深く理解することができた。
 - ・小さな作業でも見方を変えるだけで大きな事故になりかねない事が分かった。
 - ・話が飽きないように工夫されていてとても良かった。
 - ・思い込み防止。エラー防止より事故防止に努める。
 - ・エラーの発生しやすい説明が分かりやすかった。
 - ・固定概念にとらわれずに色んな視点で物事を見なければならぬと感じた。
 - ・見るより聞くよりボディランゲージが大事と思う。
 - ・目の錯覚の恐ろしさを実感
 - ・今回の研修を活かして自分自身の安全レベルの向上を目指します。
 - ・マナー化した状況を作らない。
 - ・ヒヤリハット等の重要性を感じた。

第31回 横浜港カッターレース報告



全船協理事・横浜支部長
一般社団法人横浜海洋福祉協会
会長 相川 康明

- 1、開催日時 平成26年5月25日(日)
レース開始09:00から
- 2、場所：横浜港山下公園前
- 3、参加チーム数：
一般レース 176チーム、女子チーム 32チーム、
小学生チーム 3チーム、合計 211チーム、

4、横浜港カッターレースの沿革と大会の概要

「練習帆船日本丸(一世)」を横浜市が三菱重工業横浜造船所のドック跡地に誘致した記念として、日本丸の救命艇を使用しカッターレースを開催したのが現「横浜港カッターレース」の由来である。初年度は、年2回開催したが、その後は年1回開催とし昨年が第30回記念大会となりました。

毎年の事ですが横浜港カッターレースが開催される度に、早朝、目が覚めると実行委員と競技役員の一員として空を眺め「一日穏やかな天気で、無事故・無違反」を祈っています。

今大会当日の5月25日(日)午前中は、曇天で風速も3~5m/sec.の絶好のカッターレース日和となりました。午後3時過ぎ頃から少し日差しが見られ選手・応援団・観客と大会役員にとっては素晴らしい一日となりました。

平成22年第27回大会から全5高専商船学科チームがレースに参加する事となり、平成24年第29回大会より一般社団法人全日本船舶職員協会は横浜港カッターレースの後援団体に参画しています。昨年の第30回記念大会より全5商船系高専の同窓会・校友会会長を招待し、大会翌日、同窓会・校友会会長と全船協役員との懇談会が開催され情報の交換が行われました。

5、カッターレース競技内容について

競技は、予定時刻通り開会式を終了し、一般の予選は09時第一レースが開始された。

風も一時ベタ凪ぎとなり、第15レースの11時頃にはレース予定時刻より約10分早まり亀腹での乗艇時刻が早くなったとの場内放送が流れた。一般の44レースは、14時52分終了予定が14時30分に終わった。小学生レースも14時35分と早め、女子予選は、15時20分に終了した。

大島商船OBより事前に連絡を頂きましたが、大島商船OGが指導した「大島商船〜すばる」号がエントリー、女子第51レースに出場し第2位



でゴールしました。タイムは、4分3秒97でした。来年は、3分代が出る様期待します。

準決勝進出が常連となっています「弓削商船OBかみじま」艇は、今年も2分39秒05で見事準決勝出場となりましたが、残念ながら2分41秒18で決勝進出は出来ませんでした。

- 5、尚、審判・計測・乗船指導等の競技役員、計42名中10名(約3割弱)は、全船協と横浜海洋福祉協会の会員にご協力を頂きました。この紙面をお借りして御礼を申し上げます。以上、ご報告します。

各商船高専関連チームの成績

出場艇名	エントリーNO.	順位	タイム(分-秒-)
弓削商船OBしらすな	#05	1位	2-52-58
大島商船〜ちどり	#14	2位	3-00-34
富山商船OBOB	#40	失格	2-48-27
鳥羽商船錦浦会	#55	3位	3-06-88
大島商船〜大島丸	#77	2位	2-56-27
弓削商船OBはまかせ	#123	2位	2-53-64
広島商船峨々山	#139	4位	2-58-51
弓削商船OBかみじま	#147	1位	2-39-08
商船高専30期生	#168	4位	3-41-82

一般女子	エントリーNO.	順位	タイム(分-秒-)
大島商船〜すばる	#203	2位	4-03-97

※1 正会員所属チーム及びチーム名で判明出来ないチームについては、横浜港振興協会のホームページをご覧ください。

※2 来年度各チームが第32回大会へ向けての目標値設定の参考としてください。

一般の部順位

順位	出場艇名	エントリーNO.	タイム(分-秒-)
優勝	日本食研ワグーマジヤパンA	#116	2-24-08
準優勝	館海B	#062	2-25-45
3位	チャレンジ權	#011	2-27-01
4位	T.I.T Cutter Club	#68	2-30-26

女子決勝順位

順位	出場艇名	エントリーNO.	タイム(分-秒-)
優勝	館海女子A	#186	2-36-69
準優勝	チャレンジ權Ladies	#208	2-47-32
3位	漕志漕愛	#204	2-54-75
4位	大島海洋国際高等学校端艇部G	#183	2-59-46

小学生特別レース

順位	出場艇名	エントリーNO.	タイム(分-秒-)
優勝	千葉市海洋少年団	#178	4-12-35
準優勝	横浜海洋少年団	#177	4-18-61
3位	ふじくもジュニア(藤沢海洋少年団)	#179	4-25-15



第15回 イレブンマリナーズ杯開催

第15回イレブンマリナーズ杯ゴルフコンペを、恒例のイレブンデイに合わせ2014年6月11日(月)に「長南パブリックコース」で開催した。昨年4月末から圏央道がアクアラ



インから松尾横芝まで開通したので、今回のコースは途中茂原長南ICより4kmと横浜方面からは交通の便は良くなった。

みなさん初めてのコースで気になったようだが、平坦な地形に穏やかな表情の18ホールで構成されており、安心感が持たれた。しかしグリーンは早めで結構苦しめられ、3パットも多くスコアがまとめられなかったと、反省しきりの者が多かった。

中には、久しぶりのラウンドで力が入り、ボールが右や左と大きく曲がり、OBの数ではダントツで誰もが認めたOB賞と、スコア11のイレブン賞でボールをダブルでゲットしてすっかり自信(?)を取り戻した者もあり、一人にやにや・・・。

ひと風呂浴びての懇親会と表彰式では、こうした、失敗談に花が咲きにぎやかなこと。

初夏の夕暮れ、日の落ちるのも早くあっという間に暗くなり、家路へと急いだ。みなさんお疲れさまでした。

次回晩秋(16回)、奮ってご参加下さい。

場所：長南パブリックコース

天候：曇り雨

順位	氏名	OUT	IN	Gross	H/C	Net	学校
1	菅野 智昭	51	54	105	30.0	75.0	富山
2	内田 成孝	51	54	105	30.0	75.0	大島
3	富岡栄一郎	48	49	97	21.6	75.4	鳥羽
4	古谷 明雄	49	53	102	26.4	75.6	弓削
5	藤田 和史	47	47	94	18.0	76.0	弓削
6	水野 博之	54	50	104	27.6	76.4	鳥羽
7	藤本 真之	48	56	104	26.4	77.6	弓削
8	沖田 義行	54	54	108	30.0	78.0	広島
9	島田 宏	52	50	102	22.8	79.2	弓削
10	荒木 健夫	55	57	112	32.4	79.6	大島
11	藤田 哲三	56	51	107	25.2	81.0	大島
12	岩田 仁	46	49	95	13.2	81.0	鳥羽
13	大橋 康夫	60	60	120	36.0	84.0	鳥羽
14	松坂 武彦	67	49	116	28.8	87.2	富山

第49回 五商船高専漕艇大会

広島商船が優勝 !

富山高専で開催

第49回全国商船高専漕艇大会のカッターの部は、平成26年7月19(土)、20日(日)に富山高等専門学校射水キャンパスの臨海実習場及び前面海域で開催された。富山高専が主管となる当大会は、平成18年7月に富山商船高等専門学校の創立100周年を記念した第41回大会以来となる。この後に、富山商船高専は富山工業高専と高度化再編を行い、富山高等専門学校となり、現在は新高専の一期生が5年生となっている。

また、この臨海実習場は昭和44年に完成し、40数年に渡り、練習船艇の係岸場、カッター等の海技実習の拠点として活躍してきたが、近隣の北陸電力火力発電所の大改修工事(LNG船バースの増設)に伴い、平成27年4月からは、富山新港の東水路近辺に移設することが決定している。そうしたこともあり、今回の大会は現在の臨海実習場を拠点で行う最後の大会であり、この前面海域をレース海面に設置した。

大会前日の模様は

7月19日(土)は、レース使用艇・オールによる公開練習が行われたが、途中で雷雨により中止を余儀なくされる場面もあった。そして、監督・主将・艇長会議が開催され、翌日のレース艇・コースの決定が成された。練習終了後には、(公財)伏木富山港・海王丸財団のご協力により、はるばる富山に遠征を行って頂いた、鳥羽商船高専、大島商船高専、広島商船高専、弓削商船高専の選手と引率教員を対象とした、帆船「海王丸」の見学会が実施された。

大会本番が開催される

7月20日(日)は晴天の微風となり、カッター競技の天候としては良好であったが、前日の豪雨の影響のため、レース海面の海水は濁り、港につながる河川から放出したと思える、多くの浮遊草木やゴミが漂流する状況であった。9時に開会式が行われ、10時よりBチームの予選第1レース、第2レースが開催された。この結果、決勝レースには、鳥羽、弓削、広



Aチーム優勝の広島商船高専



Aチーム準優勝の大島商船高専



弓削商船高専 A チーム (多くのクルーが、1,500m×4本を漕ぐ)

島の3校が駒を進めた。Bチームには、1年生や女子漕手も多く参加していたが、皆、元気に1,500mを漕ぎきっていたのが、非常に頼もしく感じられた。続いて、11時よりAチームの予選が開催され、各チームの鍛え上げられた漕ぎ、艇長の絶妙な舵さばき、艇指揮の元気なかけ声により、非常に盛りあがった良い接戦が行われた。この結果、決勝レースには、鳥羽、弓削、広島の3校が駒を進めた。

決勝が開催。どのチームが優勝か？

予定通りの、11時半にBチームの決勝レースが行われ、結果は1位：広島（9分40.33秒）、2位：弓削（9分43.14秒）、3位：鳥羽（10分46.36秒）と、1,2位は3秒差の接戦のレースであった。そして、12時にAチームの決勝レースが行われ、結果は1位：広島（9分8.59秒）、2位：大島（9分32.51秒）、3位：弓削（9分56.22秒）であり、今回の大会は、広島商船高専がAチーム、Bチーム共に栄冠を手にした。広島商船高専は、元気なかけ声で、皆が揃った力強い漕ぎを行い、またチーム全体の強い和が、こうした栄冠につながったものと感じる。今回の大会では、商船高専の商船学科の学生に対する、航海訓練所の長期実習システムの変革期であることから、3あるいは4年生が参加できない学校があった。また、最近の学生の運動部離れもあり、各校共に、メンバー編成には非常に苦慮している状況である。特に弓削商船高専では、多くのクルーがA、B両艇を漕いでいたが、前記のように、両チーム共に決勝進出し、1,500mを4本漕ぎ切ったことになるが、これは大きな賞賛に値するものである。また、富山高専Bチームは、漕ぎ手の9人が女子であったが、1,500mを全員がオールを流すこともなく漕ぎきっていて、これも大きな賞賛に値するものである。来年度の大会は、広島商船高専が主管で開催予定であり、この大会での栄冠を目指して、既に各校クルーでは、また新たな努力の日々が始まっているものと思う。

こうして、カッターに熱中する学生達が、この努力の過程で多くのものをつかみ、これを糧に各自の将来に大きく羽ばたいてもらうのを願う次第です。



鳥羽商船高専 A チーム（商船学科 4 年生が乗船実習で不在であり、3 年生中心メンバーで健闘）



主管校である富山高専 A チーム（バックに写るのが新湊大橋）



主管校である富山高専 B チーム
（女子漕ぎ手が 9 人で健闘）

海事ニュース

一海事局一内航船員高齢化割合 近年は改善傾向 若年層の割合も増加傾向

国土交通省海事局の調べによると、内航船員の年齢構成は、50歳以上の割合がやく50%となっているが高齢化率（50歳以上の割合）に関しては近年改善傾向にあり、若年層（30歳未満）の割合も増加しつつある。具体的には、50歳以上の高年齢の占める割合は、最も数が多かった平成19年の51.6%から、平成24年は50.4%へと1.2ポイント改善している。また、25歳未満の割合も平成19年の5.6%から24年には7.1%へと1.5ポイント改善している。

その背景として、内航トライアル雇用助成金などを含む「船員計画雇用促進等事業」をはじめ、その他様々な若年船員の確保、育成策を講じてきた。

加えて、平成24年に策定された「船員（海技者）の確保・育成に関する検討会報告」でも、若年船員の確保・育成に係る諸施策が打ち出され、これらがその後徐々に具体化されつつある。こうしたこれまでの地道な努力の積み重ねが、前述の高齢化率の改善傾向や若年層の割合の増加傾向となって、ようやくいくらかずつ表れてきつつあるものと思料される。来、約半数を占めている50歳以上の高齢船員の大量離職が予測されていることから、これらに伴う担い手不足が生じないよう、より一層さらなる若年船員の確保、育成が求められるところとなっている。

そのため当局では、①海の魅力のPR②海技教育機構と航海訓練所による新人船員育成③就職機会の拡大④入職後のキャリアアップ支援など、これまでも実施してきた船員の確保・育成に向けた取り組みを、今後とも引き続きより着実に実施していきたいとしている。

（内航新聞 平成26年5月26日）

派遣支援システム 制度の拡充に注力 日本水先人会連合会総会

日本水先人会連合会は24日、東京都内で通常総会

を開いた。福永昭一会長はあいさつで2014年度から拡充に力を注いでいる水先人の派遣支援システムに触れ、「制度が支障なく機能し、港湾機能を損なうことなく、ユーザーの皆様には迷惑をかけないための当面の対応として根づくよう全力で取り組みたい」と語った。

水先人の派遣支援システムは、業務量に対して常駐水先人の数が不足しがちな北海道の3水先区（留萌、小樽、函館）を主な対象に、連合会の推薦に基づき、他の大規模水先区所属の水先人が現地の免許を取得し、業務量の増加に合わせて応援対応する仕組み。

システム自体は以前から存在しているが、連合会ではより安定した支援体制を目指し、制度拡充に取り組んでいる。

同連合会では14年度の活動目標として、「安全運航」「技術力」「標準化」「支援」「後継者」の5項目の英字頭文字を取った「5S」を掲げている。「支援」項目では、後継者育成の推進のため、水先区の区切りを越えた支援体制の構築に取り組むとしている。

総会では、役員人事として小久保又五郎副会長の後任に佐々木功伊勢三河湾水先区水先人会会長、岡野良成専務理事の後任に金田章治氏（前北海道運輸局次長）をそれぞれ選任。また、理事6人の新任を承認した。

（日本海事新聞 平成26年6月27日）

海事局 タービン船の実習見直しで告示を 一部改正へ 9月上旬に公布・施行予定

国土交通省は近く、「船舶職員及び小型船舶操縦者法施行規則別表第六備考2の国土交通大臣が別に定める基準を定める告示」と「登録船舶職員養成施設の教育内容の基準等を定める告示」の一部を改正する。

これは、これら告示に規定する練習船による実習の基準から、タービン船による実習に係る規定を削除するもので、今回の一部改正は、9月上旬に公布・施行する予定だ。

その背景として国交省では、近年、船員教育訓練を取り巻く情勢が大きく変化したことを踏まえ、平成23年5月に有識者、船員教育・訓練機関、関係団体および国（国交省及び文部科学省）から成る「船員（海技者）の確保・育成に関する検討会」を設置し、蒸気タービンを推進機関とする船舶（タービン船）による実習の見直しなどを内容とする報告書のとりまとめを

行った。

これを受けて、近年のタービン船の運航状況などを踏まえ、登録船舶職員養成施設における海技士（機関）に係わる乗船実習から、タービン船による実習を削除することが妥当であると判断したことから、今般、当該内容について措置を行うため、当該告示の一部改正を行うこととするもの。

なお、航海訓練所練習船におけるタービン船実習は、蒸気タービンで動く唯一の練習船である「大成丸」（3代目）で実施されてきたが、同船が高齢化したのを機に、このたび内航用練習船へと代船建造されたことに伴い、今後は航海訓練所においてこれまで実施してきたタービン船実習が実施できなくなる。

このため、船員（海技者）の確保・育成に関する検討会報告「蒸気タービンを推進機関とする船舶は LNG 船に限られるという現状にかんがみ、LNG 船を運航する外航海運事業者自らタービン船実習を実施することが適当である」とされた。

（内航新聞 平成 26 年 6 月 9 日）

船員部会

海上就職率は前年度並みの高水準

船員教育機関 就職・入学状況を報告

5 月 23 日に開催された国土交通省の船員部会では事務局より、船員教育機関卒業生の求人・就職状況および入学状況が報告された。それによると海上就職率は全般的に、前年度に引き続きおおむね高水準で推移している。また、入学の応募倍率に関しては、ほぼ前年度並みの高い倍率を示している。これらに係る説明概要は次のとおり。

<求人・就職状況>

船員教育機関における平成 25 年度卒業生の求人・就職状況については、これらの調査対象は商船系大学では、東京海洋大学の航海系学科と機関係学科、神戸大学の航海系学科と機関係学科の 2 校。商船系高専は、航海系学科と機関係学科の 5 校。海技教育機構は、海上技術学校（本科）4 校、海上技術短期大学校（専攻科）3 校および海技大学校。

これらに係る求人・就職状況の内訳は、商船系大学では卒業生は 104 名で、このうち就職希望者数は 97 名。海上産業からの求人件数は 155 件で、過去 4 年と比べ最も多く、求人倍率は 1.6 倍。これに対して海上

産業への就職者数は 82 名で、海上就職率は 84.5%。

商船系高専については、卒業生数は 173 名で、このうち就職希望者は 135 名。海上産業からの求人件数は 689 件で、前年度に比べて 71 件増加し、求人倍率は 5.1 倍。これに対して海上産業への就職希望者数は 90 名で、海上就職率は 66.7%。前年度と比較して 6.4 ポイント減となっている。

海技教育機構の海上技術学校・短大については、合わせて 7 校の卒業生数 357 名で、このうち就職希望者数は 325 名で、求人倍率は 2.25 倍。これに対して海上産業への就職者数は 313 名。海上就職率は 96.3%で、前年度と比較して 0.8 ポイント減少。

海技大学校については、卒業生数 25 名のうち就職希望者数は 23 名。これに対する求人件数は 50 件で前年度と比較して 6 件減少。海上産業への就職者数は 23 名で、海上就職率は 100%となっている。

<入学状況>

船員教育機関における平成 25 年度の入学状況については、商船系大学は入学定員 350 名に対して応募者数は 1506 名。応募倍率は 4.6 倍で、入学者数は 340 名。商船系高専は、入学定員 200 名に対して 417 名が応募。応募倍率は 2.1 倍で、215 名が入学している。

海技教育機構の海上技術学校と海上技術短期大学校は、入学定員 370 名に対して 1112 名が応募。応募倍率は 3.0 倍で入学者数は 372 名。

なお、海上技術学校・短大については、応募倍率が今年度も前年度と同様の 3.0 倍であるが、今年度は入学定員数を 20 名増員したことなども反映し、応募者数の実数としては前年度より 65 名増加している。

（内航新聞 平成 26 年 6 月 2 日）

LNG 船の船員倍増

日本郵船、1200 人に養成強化

米産輸出拡大備え

日本郵船は LNG 船の戦隊拡大に伴い、船員の養成を強化する。

LNG 船の戦隊を現状の 67 隻から 2018 年度末に 100 隻以上に拡大する計画に合わせ、現状約 600 人の LNG 船の船員を約 1200 人に倍増する。タンカーなど他の船種から船員を移し、LNG 船に乗船させて業界団体などが設ける乗船履歴などのガイドラインをクリアし

た上級船員を養成。米国産シェールガス由来の液化天然ガス（LNG）輸出拡大を視野に、運航体制の整備を進める。

LNG 船の船員は1隻当たり約30人必要。このうち、業界団体や顧客が求めるキャリアを持つ上級船員は約10人。日本郵船ではLNG 船の上級船員の養成を急ぐため、現在運航しているLNG 船に2倍の船員を乗船させるなど、乗船経験を積ませている。同社はLNG 船を18年度末までに30隻以上増やす計画で、それ以降もさらに拡大する見通し、船長の養成には乗船経験が8~9年程度必要となるため、今後5年で船員の養成を加速する。

現在タンカーなどに乗船している船員をLNG 船にシフトするほか、日本郵船がフィリピンで運営している商船大学の卒業生をLNG 船に重点的に配分して、船員を確保。外資系のエネルギー会社などの荷主が、船員に求める厳しい基準などを想定して、養成を進める。

（日刊工業新聞 平成26年7月3日）

—海事局— 船舶設備規程等一部改正を公布 1600総トン以上 内航船も規制対象に

国土交通省海事局は6月2日付官報で、「船舶設備規程の一部を改正する省令及び船舶における船内の騒音防止の措置を定める告示」について公布した。これは今般、IMOにおいて、船員の健康保持のための船内の騒音レベルの抑制を目的としてSOLAS条約付属書改定案が採択されたことから、わが国においても改正内容を担保するため、船内設備規程等において所要の改正を行うとともに新たに告示を制定するもの。これにより従来は非強制であった船内騒音規制コードが義務化され、7月1日以降に建造契約が結ばれる1600総トン以上の内航船にも義務づけられこととなる（ただし）内航船については一部規程のみ3年間の猶予期間が設定される。

今回の改正では、船員の健康は保持のため、船舶の機関区域などから発生する騒音レベル及び船員の騒音暴露を一定以下に抑える基準を定めた船内騒音規制コードの取入れを行う。

とともに、同コードの取入れに伴い、遮音性能を有する甲板及び隔壁を新たに予備検査等の対象物として追加することとする。

当改正騒音コードの主な内容は「居住区、船橋、機関区域等の騒音値の上限を規制」「騒音値を測定し、騒音調査報告書作成を要求」「船員の騒音暴露量の算出を要求」「居住区域内の隔壁及び甲板について一定の防音性能を要求」「85デシベル以上の区域を有する船舶に聴覚保護具の備え付けを要求」「85デシベル以上の区域の入口に警告表示を要求」など6項目。

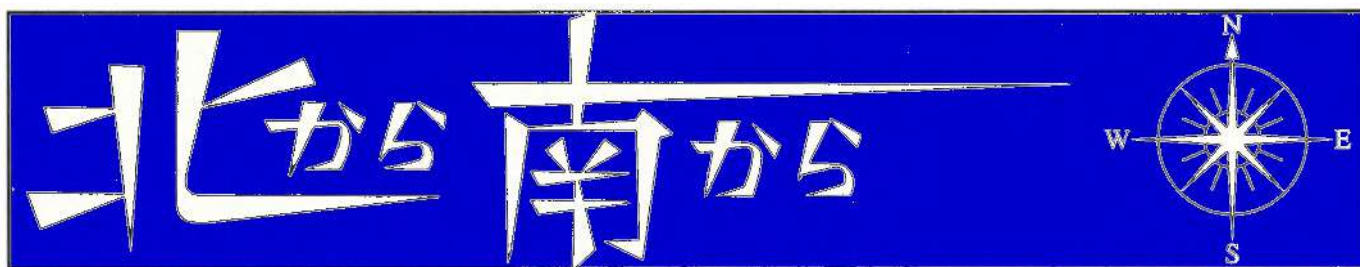
これらのうち内航船において3年間の猶予期間が設定されるのは、「居住区、船橋、機関区域等の騒音の上限を規制」に係る事項で、その背景として内航船の場合、騒音の一番の起振源である機関室との距離が取りにくく、騒音レベルを抑えるのが技術的に難しいサイズの船舶が多い。そのため、騒音レベルの規制のみについては、3年間の猶予期間が設定されることになったもの。

また、これを担保するため、①船舶設備規程で、対象船舶に船内騒音規制コードに従って騒音防止措置等を行うことを規定②船舶における船内の騒音防止の措置を定める告示で、船舶設備規程等に基づき行う騒音防止装置の具体的要件を規定するための告示を新たに制定する③船舶安全法施行規則で、製造に係る予備検査を受けることができる物件として遮音性を有する甲板及び隔壁を追加。

船内騒音に係る改造等を臨時検査の対象に追加④船舶安全法の規定に基づく事業場の認定に関する規定で、製造認定事業場の製造工場の対象となる物件として遮音性能を有する甲板及び隔壁を追加⑤船舶等型式承認規則で、型式承認および検査を受けることができる物件として遮音性能を有する甲板及び隔壁を追加—などの法令改正を行う。

なお、今回の船内騒音規制コードの義務づけは、従来のように設備要件や技術要件に係る規制とは大きく異なり、騒音そのものを抑えるという形のもので、対応にはかなりの困難性が伴うことが予想される。しかし、改正の趣旨は、船員の労働環境改善を主眼としており、適切な対応が求められるところとなっている。

（内航海運新聞 平成26年6月16日）



富山高等専門学校

学 校 ①

年度はじめから入学式、1年生合宿研修、そして数十年ぶりの5月開催となった北斗祭などたくさんの行事を行いました。主な行事の様子について、ご報告いたします。

○1年生合宿

5月12日(月)～13日(火)国立能登青少年交流の家(石川県)において1年生合宿研修を行いました。参加学生は射水キャンパス(電子情報工学科、国際ビジネス学科、商船学科)、本郷キャンパス(機械システム工学科、電気制御システム工学科、物質化学工学科)の1年生です。1日目は雨のため屋内でのビーチバレー大会を行い、夜は校歌の練習とクラス紹介を行いました。2日目は能登島水族館を見学しました。2日間という短い研修ではありましたが、もりだくさんのイベントを通してキャンパス・学科を越えて親睦を深めておりました。これからの長いようで短い5年間の学生生活のスタートとなる研修になったと感じております。



○北斗祭

5月17日(土)～18日(日)に北斗祭を開催しました。今年のテーマは「TRY ～108年目のリスタート」でした。富山高専となって5年が経ち、全ての学科で5学年が完成した年であり、新しいことに挑戦し、新たにスタートしようという気持ちを込めたテーマです。模擬店、ステージ企画、平成25年度高専ロボコン大勝「SuLuMe」のデモンストレーション、学科展示、クラス展示、留学生の母国紹介、若潮丸の体験乗船などたくさんの催しがありました。前日の16日(金)は強風のため準備後の前夜祭は屋外ステージではなく体育館での開催となりましたが、17日・18日ともに天候に恵まれました。臨時駐車場もいっぱいになり、シャトルバスも急遽増便して対応しなければならないほど、大勢の方々にご来場頂きました。たくさんのOB・OGの方々もご来場されており、また、多くの企業様、地域の皆様のご支援・ご協力を頂戴しました。心より御礼申し上げます。



(学生主事補 商船学科 経田僚昭)

学 校 ②

○平成26年度入学式挙行

4月4日、本科および専攻科の入学式が挙行されました。本科6学科265名（商船学科42名、電子情報工学科45名、国際ビジネス学科42名、機械システム工学科47名、電気制御システム工学科47名、物質化学工学科42名）、留学生3名、編入学生1名、専攻科3専攻47名（エコデザイン工学専攻30名、制御情報システム工学専攻11名、国際ビジネス学専攻6名）、計316名が入学しました。

式では、本校の教育理念「創意・創造」「自主・自立」「共存・共生」のもと、創造性に富み、またグローバルなエンジニア、ビジネスパーソンになるため、自分自身の可能性にチャレンジして欲しいと、石原校長から式辞が述べられました。

また本科入学生の代表は、どのような困難に直面しても自らの信念を忘れず、高専生としての誇りを持ち、日々精進していきたいと、誓いの言葉を述べました。



入学式・本科学生代表による宣誓

○就職ガイダンス

6月25日、射水キャンパス3学科（商船、電子情報、国際ビジネス）の4年生を対象とした、第1回就職ガイダンスが行われました。このガイダンスは前期に3回行われる予定で、初回のこの日は、「就職就活スタートアップ講座」と題して、外部からお招きした講師の方にお話をいただきました。

2016年卒業学生の就活スケジュールが従来とは異なること、またその利点と注意点、自己分析の進め方等について、実例を交えながら詳しく説明をいただきました。尚、今後はエントリーシートや面接対策等について講演をしていただく予定です。



就職ガイダンス

○クルーズ客船のお出迎えとお見送り

6月26日、ぱしふいっくびいなす（日本クルーズ客船株式会社）が富山新港（海王岸壁）に寄港しました。商船学科1年生はカッター3艇を出廷し、新湊大橋の直下で客船のお出迎えをしました。大型客船を目前で見た1年生の一人は「将来あんな大きな船を操舵してみたい」と嬉しそうに話していました。

また、出航セレモニーでは近隣中学校の吹奏楽部による演奏や、乗客によるテープ投げが行われました。そ

の後、商船学科3年生が「UW」の旗を掲げて客船の安航を祈り、お見送りしました。



客船の入港・お見送り

○新任の教員および技術職員の紹介

4月1日付で、五味伸之先生（商船）、塩見浩介先生（国際ビジネス）、山村啓人先生（一般教養科・英語）、池野一成氏（練習船若潮丸）、加藤元紀氏（技術室）が着任されました。

○4月から10月の主な行事予定

4月4日	入学式
6月4～10日	前学期中間試験
7月5～6日	第46回 北陸地区高専大会（富山高専主管）
7月15日	洋上救命講習
7月18日	校内カッターレース大会
7月18～19日	全国商船高専漕艇大会（カッター・ヨット）
7月30～8月6日	前学期末試験
7月31日	商船学科5年生（機関コース）卒業研究発表
8月1日	商船学科5年生（航海コース）卒業研究発表
8月6日	商船学科5年生席上課程修了式
8月7～9月21日	夏季休業
9月24日	商船学科卒業式，海事システム工学専攻修了式
10月1日	入学式（専攻科 海事システム工学専攻） 商船学科4，5年大型練習船前期長期実習開始

（教務主事補 商船学科 山田圭祐 記）

北斗会（旧富山商船同窓会）

富山商船同窓会が学校統合により「北斗会」に改名して早や三年。全国の同窓生には未だ馴染みの薄い感はない中で、7月に新しく「山形県人会」が発足し、第1回の懇親会が鳥海温泉で開催されました。これで北斗会は北海道、東北、新潟、関東、関西、富山の6支部と石川及び今回の山形の2県人会の組織となりました。

母校の様子としては、今年度で全学年が新校名での入学生となり、学内では名実とも「富山商船」の名が消

滅してしまいました。そんな母校では6月から7月にかけて毎年行われる「北陸地区高専体育大会」においては、陸上部の優勝をはじめ過去にないくらいの優秀な成績をあげたようです。また、7月18日に行われる「校内カッター大会」に向け、各クラス単位での練習会も順調に進んでいるようです。特に女子チームの活躍は地方TV局では大きく取り上げられており、校名は変わっても毎年の伝統行事はむしろ盛り上がっているようです。

・同窓会事務局からのお知らせ

平成26年度「北斗会」総会が下記の日程で行われます。9月に会員各自に発送される「会報」には詳しい記事を載せますので、友人お誘いあわせの上ご出席ください。

日時：平成26年11月1日（土）

14：00～ 理事会

16：00～ 総会

17：00～ 懇親会

場所：富山電気ビルレストラン会議室

北斗会 事務局

佐々木 正

鳥羽商船高等専門学校

学校

平成26年度本科並びに専攻科（生産システム工学専攻）入学式を挙

行しました。平成26年4月4日（金）本校第2体育館において平成26年度本科並びに専攻科の入学式を挙

行しました。商船学科42名、電子機械工学科46名、制御情報工学科42名の計130名の本科新入生を迎え、生産システム工学専攻に11名の進学者を迎えました。

式では、藤田校長の入学許可の後、在校生が足踏みで新入生への歓迎の意を表しました。また、藤田校長から「実践的な工学の知識と技術を身につけ、創造力とリーダーシップを備えた逞しい人間に育てていただきたい」と式辞を述べられ、新入生を代表して制御情報工学科と生産システム工学専攻の入学生からそれぞれ、新しいスタートにあたっての抱負が読み上げられました。



第3回小水力発電アイデアコンテストにおいて学生優秀賞を受賞

3月22~23日に福井県鯖江市で開催された第3回小水力発電アイデアコンテストにおいて、本校電子機械工学科の学生5名が参加し、「学生優秀賞」を受賞しました。

開発した小水力発電装置のテーマは「BOX小水力発電」で、プレゼンテーションやデモンストレーション審査、アプリケーション審査において、他校の学生や地域の住民等において高い評価をいただきました。

また、製作にあたって技術職員の皆様には、協力を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。小水力発電アイデアコンテストとは東海北陸地区の高等専門学校の学生が地域の自然資源を活用した小水力発電の設計・製作・設置を行い、アイデアを競うコンテストです。

シンガポール・ポリテクニク短期留学生在本校に滞在

3月9日から4月19日までの6週間、シンガポール・ポリテクニクからの学生三人が短期留学生として鳥羽商船に滞在しました。

鳥羽商工会議所の協力の元、伊勢志摩地域を初めて訪れる外国人向けにウェブページを制作しました。留学生がウェブページを制作するにあたり、事前に観光スポットの調査を行いました。留学生は、鳥羽商船の様々な学年から選ばれたサポート学生と一緒に、伊勢・志摩・鳥羽の名所を散策しました。

3人の学生が作成したツーリスト「ヒートマップ」は下記のページです。

http://www.info.toba-cmt.ac.jp/~ICT/toba_heatmap.php

3人の学生を中心とした活動内容は中日新聞にも取り上げて頂きました。

三重県高校総体男子5000m競歩で4位入賞

第64回三重県高等学校総合体育大会陸上競技の部が、5月30日(金)から6月1日(日)まで、三重県営総合競技場陸上競技場にて開催されました。

本校から、男子5000m競歩(17名がエントリー)に出場した清水勇志君(電子機械工学科2年)が、猛暑の中24分36秒05のタイムで4位に入賞しました。

この結果、6月20日(金)から22日(日)まで開催された、第61回東海高等学校総合体育大会へ出場しました。



Digital Youth Award で準グランプリ獲得、Imagine Cup 2014 世界大会出場

4月12日に開催されたDigital Youth Awardのアプリ部門において、制御情報工学科の「かぞくぐるみ」チームが準グランプリと日本マイクロソフト株式会社賞を獲得しました。

Digital Youth Awardは、WDLC (Windows Digital Life Consortium) 主催のコンテストで、アイデア部門とアプリ部門から成ります。両部門合わせると1000以上のチームがエントリーしています。

なお、この大会は、Imagine Cupの日本大会も兼ねており、大会後にマイクロソフト米国本社による審査を経てImagine Cup 2014世界大会への出場も決定しました。Imagine Cup 2014は7月下旬にアメリカシアトルで開催されます。

テレビ電話機能を活用した縫いぐるみ型コミュニケーションロボット「かぞくぐるみ」は、組込み開発、ネットワーク制御、テレビ通話アプリといった多様な技術を組み合わせてシステムを構築している点が高く評価されています。



教員の退職

伊藤 政光 (商船学科)、 尾方 民雄 (商船学科)、 大石 哲男 (電子機械工学科)、
 桐山 和彦 (電子機械工学科)、 榎本 隆二 (制御情報工学科)、 上野 康平 (一般教育)、
 小澤 裕香 (一般教育)、

採用

松井 茂春 (商船学科)、 齊心 俊憲 (商船学科)、 小島 智恵 (商船学科)
 脇坂 賢 (電子機械工学科)、 亀谷 知宏 (電子機械工学科)、 内村 佳典 (一般教育)、
 三重野 雄太郎 (一般教育)

(制御情報工学科 中井 一文記)

同窓会

鳥羽商船出身のみなさまお元気ですか！

世界の物流・人流が拡大しより多くの海上安全輸送が求められている昨今ですが、その中核を担う日本人船員が不足している現実と直面し、永年にわたり取り扱われてきた日本人船員不要論の船員政策の過ちを強く感じざるを得ません。

我が同窓会も次世代のための船員の教育と育成を支援・協力できるよう、全船協との連携を強化していきたいと思っています。

さて、去る6月8日に神戸メリケンパークオリエンタルホテルで開催された平成26年度鳥羽商船同窓会理事会・総会の席上、菱田司会長（35E）より「健康上の事由で来年度総会までの間の会長職務代行として田中三郎副会長（42N）を指名する」旨の報告・紹介がありました。来年度総会までの1年間、同窓会本部は田中会長代行・江崎事務局長（44E）体制で運営にあたる事となりました。今後のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

26年度理事会・総会の模様は同窓会HPに掲載し、後日発送予定の同窓会会報で詳しくお知らせいたしますので是非ともご覧ください。

鳥羽商船同窓会は会員の居住住所割りによる支部体制を取っており、それぞれの支部は支部長を中心に運営されています。勤務都合などで居住地域が変更になったような場合は新住所の支部に連絡を取り支部活動に参加いただけるようよろしくお願いいたします。

- ・北海道支部：奥田宣夫支部長（48E）（011-747-8850）
- ・東日本支部：水野正治支部長（43N）（045-846-0397）
- ・中部支部：加塚伸吾支部長（52E）（0566-81-3538）
- ・四日市支部：室博也支部長（55N）（0593-39-1681）
- ・伊勢志摩支部：古川昭一支部長（30E）（0598-21-4629）
- ・関西支部：籠田弘之支部長（39N）（078-991-6125）
- ・西日本支部：山下文徳支部長（41E）（0823-51-3174）



（鳥羽商船同窓会長代行 田中三郎）

広島商船高等専門学校

学 校

○4月6日（日）：平成26年度入学式を挙りました

商船学科 44名，電子制御工学科 48名，流通情報工学科 46名，編入学生 3名（内マレーシア 1名，インドネシア 1名），専攻科産業システム工学専攻 8名が入学いたしました。

村上校長から、「心豊かで実り多い学生生活を過ごし、立派な社会人として巣立って行くことを願います」と式辞があり、続いて商船学科溝田直音君が新入生総代として「校則を守り、学生としての本分を尽くして、社会に有為な人物となるよう努力することを誓います」と宣誓しました。



○4月8日（火）新入生オリエンテーションを行いました

平成26年4月8日（火）～4月10日（木）国立三瓶青少年交流の家にて平成26年度新入生オリエンテーションを行いました。

ハイキングや野外炊飯などのグループ活動を通じて友好を深めました。



○4月24日（木）25日（金）大崎上島中学校の宿泊研修に協力しました

1年生44名を受け入れカッター訓練や学校見学を行いました。また、学生寮の食事体験もしてもらいました。生徒たちは、普段の学校生活とは違う体験活動に新鮮さを感じてくれたようでした。



○4月25日（金）、4月26日（土）の2日間で専攻科生研究交流会が開催されました。

平成26年度中国・四国地区高専専攻科生研究交流会がRCC文化センター（広島市）で開催され、本校専攻科生10名が参加しました。これまでの研究成果の披露と討論を行い、今後の研究に反映するとともに、他高専の専攻科生と交流を深めました。



○6月8日（日）大学COC障がい者支援事業を実施しました

大学COC障がい者支援事業の一環として、「自然の下で交流体験」と題し、国営備北丘陵公園へ日帰りバス旅行を実施しました。

障がい者1名に対し学生複数名を配し、広大な自然に恵まれた同公園での自然散策やアスレチック体験などを通じて、お互いの意思疎通を図りながら交流を深め、本校の教育目標に掲げる、豊かな心、優しさと思いやりに満ちた心の育成を実践しました。



○6月19日（木）：シンポジウム2014「島を元気にする若者たち」を開催しました

本校の「地（知）の拠点整備事業」の一環としてシンポジウムを行い、約300名の参加がありました。

各地で離島振興活動を行う研究者・実践者・学生による基調講演・活動報告・パネルディスカッションが行われました。離島活性化のポイントとして「一緒に活動できる仲間の必要性」や「地域とともに将来像を共有できること」などの提言があり、参加者から「もっと聞きたかった」といった声がありました。

島内にある大崎海星高校からの参加もあり、このシンポジウムは地域の方々への日々の事業報告であり、これからの将来を担っていく若者たちへのきっかけになればと思いました。



校友会

○5月24日（土）：校友会の総会がありました

本校のOB会である「校友会」の総会が開催されました。多くの校友が参加し、本校のバックアップ等について議論が行われました。

総会後の懇親会では、学生時代の昔話にも花が咲き、旧交が温められました。

来年度の総会は東京で開催されます。



○平成 26 年度の校友追悼合祀式のご案内

平成 26 年度の校友追悼合祀式を以下の要領で実施します。近隣の校友をお誘い合わせの上、多くの校友諸氏のご参加をお待ちしております。

日付 平成 26 年 10 月 19 日(日) 12:30～

場所 広島商船高等専門学校 慰霊碑広場

住所 725-0231 広島県豊田郡大崎上島町東野 4 2 7 2 - 1

備考 昼食を準備しますので、11 時 30 分までにご来校下さい。尚、当日は商船祭のため、送迎は予定しておりませんのでご了承ください。メールの方は、出欠と、昼食の要 不要をお知らせください。

koyukai@hiroshima-cmt.ac.jp

大島商船高等専門学校

学 校

平成 2 6 年度入学式挙行

平成26年4月6日（日）平成26年度入学式を挙行了しました。今年度は、商船学科42名、電子機械工学科44名、情報工学科47名、3学年に入学する外国人留学生3名（S：マレーシア、M：カンボジア、I：インドネシア）の合計136名の本科入学者がありました。また、専攻科には電子・情報システム工学専攻に13名が入学しました。

石田校長は式辞で、新入生の3つの心得として「夢を持ち、それに向けて道を切り拓くこと」「国際性を磨くこと」「多くの友人を作り、また何かあれば教職員に相談すること」を話しました。



続いて、本科入学生を代表して情報工学科矢野彩花さんが、専攻科入学生を代表して電子・情報システム工学科の重本昌也さんが、入学の宣誓を行いました。新入生はこれから始まる高専生活に期待を膨ませている様子でした。

高雄海洋科技大学より視察団来校

平成26年4月16日（水）大島商船高等専門学校に、台湾の国立高雄海洋科技大学から周校長をはじめ6名の視察団が来訪しました。平成26年3月に、本校と台湾の国立高雄海洋科技大学との間で、両校の学生交流や人事交流、共同研究の推進等を目的として連携協定を結んでおり、この度の来訪はそれに基づくものです。

当日は校長室での会談ののち、教員の研究室や練習船大島丸を視察しました。視察団は商船学系教育と工学系教育を行っている商船高専という形態に興味をもった様子でした。



平成26年度新入生合宿研修開催

平成26年4月24日（木）・25日（金）国立徳地青少年自然の家において、毎年恒例の新入生合宿研修を開催しました。この行事は新入生を対象として、団体行動及び共同生活の体験を通じ、教職員と学生、学生相互間の人間関係を密にするとともに、友愛・協調の精神を養い、本校での学生生活の基礎を養うことを目的とするもので、新入生・教職員合計 140 名が参加しました。

初日は、豊かな徳地の自然の中、登山を行い、夜は大縄跳びのレクリエーションを行い、2 日目は、野外炊飯でビーフカレー作りを行いました。2 日間の合宿を通して、随所でまだ知り合ったばかりの新入生同士が助け合い、協力して物事を解決する姿が見られ、絆の深まりを感じさせました。



大晃機械工業株式会社新人研修会を大島丸で実施

平成26年5月29日（木）練習船「大島丸」において、近隣企業の大晃機械工業株式会社の新人研修会が実施されました。これは近隣企業と本校の交流を目的として立ち上げた、大島商船高等専門学校地域連携交流会の交流事業の一環として実施されたもので、同社が製作したポンプが大島丸に使用されていることもあり、実現しました。

当日は、船長からの挨拶ののち、船内の見学や機関長からの講話等があり、午後には実際に船を動かして航海実習を行いました。研修に参加した新入社員は、これから自分たちが製作するポンプが船の中でどのように機能しているのか実見することができ、奮起している様子でした。



商船学科公開授業開催

平成26年5月31日（土）大島商船高等専門学校では、平成26年度商船学科公開授業を開催しました。これは商船学科や船に興味のある中学生を対象に、商船学科のPRを目的として例年開催しているものです。

当日は、中学生36名とその保護者28名が参加しました。本校実習船「すばる」の体験航海や、操船シミュレータを用いたニューヨーク近海の疑似操船体験、練習船「大島丸」のエンジン作動体験等の授業を通して、参加した中学生は商船学科に興味をもった様子でした。

昨年度から、電子機械工学科や情報工学科の協力もあり、商船学科に限らず広く大島商船高専の広報活動も行いました。公開授業の内容は「実習船すばるの体験航海」「練習船大島丸のエンジンを動かそう」「防災食料の試食会」「見てみよう！！大海原に浮かぶ船」「蒸気ポンポン船を作ろう」「シミュレータでニューヨーク体験航海」「資料館で学校の歴史を知ろう」「身近なものを使って電気を作ろう」「森・川・海はつながっている」「こうして物を冷やす」「PWC（水上バイク）レスキュー活動体験」「画像処理に挑戦しよう」「画像加工でかめはめ波」「3D-CADで形を表現してみよう」でした。それぞれ参加者は興味深く授業を聞いていました。毎年、参加者から多数の大島商船高専志願者が出ており、今後も開催を続ける予定です。



山口県3高専合同学校説明会を開催

平成26年7月12日（日）、岩国市民会館において、山口県にある徳山工業高専・宇部工業高専と共同で中学生に対する学校説明会を行いました。48名の中学生とその保護者約100名が参加、高専及び3校の紹介のプレゼンテーションを聞いた後、模擬授業や各校のブースにおける説明に耳を傾けていました。

この行事は、県内中学生に対し高専を広く知ってもらうために山口県の3高専が協力して今年度より行うもので、6月に下関で行われ、8月に山口市で行うことになっています。



学生の活動

美化委員によるエコキャップ活動

平成26年4月3日（木）、美化委員を中心としてのエコキャップ活動を毎年行っていますが、25年度の活動成果として、収集したペットボトルキャップを財団法人日本電信電話ユーザー協会山口県支部に引渡しました。エコキャップ活動とはペットボトルキャップの再資源化で得た売却益をもって「世界の子どもたちにワクチンを寄贈し救済する」ことを目的とするものです。

当日は美化委員を代表して、電子機械工学科5年崎永成彦さん、情報工学科5年田代悠生さん、商船学科5年堀本凌さん、商船学科4年坂上嘉一さんが、昨年度までに各クラスから収集したペットボトルのキャップ80キログラム（約32,000個）の引渡しを行いました。美化委員は今後とも活動を続け、校内美化と社会貢献に努めていきます。



平成 26 年度ブックハンティング実施

平成26年5月24日（土）ジュンク堂書店広島駅前店の協力のもと、図書委員によるブックハンティングを実施しました。このイベントは学生が書店に出向き、自身で選書することによって、良書に親しみを持つとともに、教養を高めることを目的とし、例年開催されているものです。

当日は図書館長、情報工学科松村教員の引率の下、図書委員10名が参加しました。事前にクラスから希望を募っていた学生もあり、皆積極的に参加していました。なお、ブックハンティングによって選定された図書は、6月以降に貸出が開始される予定です。

山口県高校総体水泳競で優勝

5月24日（土）・25日（日）を中心に行われた山口県高等学校総合体育大会（高校総体）に多数の学生が参加しました。その中で、山口きらら博記念公園水泳プールで開催された水泳競技において、電子機械工学科3年の砂田一虎さんは、24日（土）の男子400m個人メドレーの予選で4分36秒82の大会新記録を出して決勝に進み、続く決勝では予選のタイムを上回る4分32秒98で優勝しました。さらに、25日（日）の男子200m個人メドレー決勝でも2分08秒29の大会新記録をマークし、優勝しました。

砂田くんは、さらに6月21日（土）・22日（日）の「第62回中国高等学校選手権水泳競技大会 山口県予選会」においても男子400m個人メドレーにおいて大会新記録（4分34秒11）で優勝しました。男子200m個人メドレー決勝では大会新記録まであと0.32秒に迫るタイム（2分08秒76）で優勝しました。



教員異動

採用： 井口智彰（一般科目－英語）
尾上智子（一般科目－英語）
村田光明（商船学科）

松村 遼（情報工学科）

（大島商船高等専門学校 電子・情報システム工学専攻 平成 20 年度修了）

（教務主事 辻 啓介 記）

同窓会

会員の皆様、暑中見舞い申し上げます。

平成 26 年度商船学科卒業式が 9 月 19 日（金）に挙行される予定です。航海訓練所での実習を終える、航海コース 18 名、機関コース 14 名の 32 名が一段と逞しくなって巣立って行きます。

主に東京・京浜・大阪・神戸方面への就職・進学となりますので、各支部への参加を教示致しますので、御指導・御支援のほど宜しくお願い致します。

次に平成 26 年度慰霊祭・定期理事会総会のご案内をさせていただきます。

9 月 26 日（金）に平成 26 年度慰霊祭を予定しております。また慰霊祭終了後、定期理事会と定期総会が開催されます。

また昨年度行われました、平成 25 年度の定期理事会総会のご報告を致します。議題は次の通りです。ご不明な点やご質問等ございましたら、大島商船高専同窓会事務局までお問い合わせ下さい。

- (1) アドミッション・アドバイザー活動及び支援について
- (2) 各支部活動報告
- (3) 会計関連承認事項（収支決算・予算・資産）
- (4) 平成 25 年度新役員（任期 H25 年 10 月～H27 年 9 月）
- (5) 平成 25 年度校内理事役割分担
- (6) 平成 25 年度就職進学状況（S,M,I）
- (7) その他（事務局より連絡）

優秀な入学生を確保するために平成 21 年度よりアドミッション・アドバイザー制度を活用して参りました。今後も中学校への PR には時期と場所が非常に大切であるため、入試状況等を見ながら毎年理事会で審議し、その有効性や設置県などを検討していくことになりました。

最後になりましたが、厳しい暑さが続いておりますので、お身体ご自愛下さい。

（中村翼 記）

弓削商船高等専門学校

学 校

・入学式

平成 26 年 4 月 6 日（日）、商船学科 45 名、電子機械工学科 42 名、情報工学科 44 名、編入学生（電子機械工学科、情報工学科 4 年）3 名、留学生 4 名、専攻科生（生産システム工学専攻）6 名の 144 名を迎えて入学式が行なわれました。本年度は日曜日開催の入学式となり保護者の参加も 200 名を超え、盛大な入学式となりました。入学式終了後は、保護



者説明会、学級担任との懇談会も行われました。

・操船シミュレータの導入

本年4月より、最新鋭の操船シミュレータが導入され、早速そのすごさを披露いたしました。入学式では中学校の先生方を中心として10数名が見学され、さらに夏休みにかけて近隣中学校から見学に来られた数校の中学生に対して実演が行われました。舵を取った中学生や先生方は素晴らしい映像とリアルな動きに感動されていました。

このシミュレータは旧シミュレータと比較するとその大きさはもとより、着岸、離棧操船等も可能となっており、実際に教室の中に作られたブリッジでの操船はまさに船に乗った気分での実習が可能となっています。

このシミュレータの公開は学園祭(商船祭)、オープンキャンパス等で行われます。一般の方は学園祭での見学を是非されてはいかがでしょうか？



“操船シミュレータを操作する学生たち”

・瀬戸内しまのイベント協力行事について

本年は瀬戸内海の島々を中心にいろいろなイベントが開催される予定です。弓削商船高専の所在する上島町においても様々なイベントが開催され、本校もこれらの行事の中で以下の行事に協力予定です。

多くの方々のご参加、見学者の方をお待ちしております。

1. 商船カレーのレシピ作成

この企画は、平成26年8月2日(土)に開催される「かみじまふるさと夜市」のタイアップイベントとして、上島町の新たな名物を作り出そうとする試みです。レシピの作成には本校学生の案がもとでカレーが作られます。

2. 四国EVラリー2014 inかみじま

平成26年8月30日(土)～31日(日)、上島町(弓削島)の一般道を使った電気自動車の大会が開催されます。この中で本校はその技術を生かし、参加される電気自動車の充電基地としてこの行事に協力することとなりました。参加するチームは四国を中心として大学、一般と数十チームの予定です。



“レシピ打合せを行う学生たち”

3. 瀬戸内国際ヨットラリー2014

この行事は国外からのヨットを招いた大会であり、本年は広島―大阪間の各泊地を經由して海外艇を含むヨット、20艇がクルージングを行います。その中で上島町(弓削島)の海の駅も寄港地となっており、

本校は学生を中心とするエスコート隊により開催の支援を行います。この中で学生は海外の参加者との交流を図り、島では経験できないような国際的ヨットでの乗船体験も行う予定です。開催期間平成 26 年 9 月 20 日（土）～10 月 19 日（日）の中で上島町（弓削島）への寄港は 9 月 29 日～10 月 1 日となっています。

（広報主事・副校長 益崎真治 記）

・同窓会

H26 年同窓会総会開催の報告

平成 26 年 6 月 13 日（金）本年は京浜にて矢野京浜支部長のお世話により総会が開催されました。ホテルマリナーズコート東京にて総会に引き続き懇親会が開催されました。総会では、物故者の方の黙祷からはじまり、平成 25 年行事報告、決算報告等が行われました。また次年度開催地として高松での開催が決定いたしました。

続いて行われた懇親会には 41 名の参加者があり、本年は学校より木村校長先生にも参加していただき、学校の近況報告をおこなっていただきました。

翌日には 33 名の参加者により同窓会ゴルフ大会を開催しております。

来年度の高松にも多くのかたのご参加をおまちしております。



京浜支部での H26 年同窓会総会



同窓会ゴルフ大会

横浜カッターレス参加報告

第 31 回横浜カッターレスが晴天の中、5 月 25 日開催されました。弓削商船同窓生チームも 3 チーム参加いたしました。一般レース参加 176 チーム中、予選第 2 レース：しらすな 1 位 2 分 5 2 秒 5 8、予選第 3 1 レース：はまかぜ 2 位 2 分 5 3 秒 6 4、予選第 3 7 レース：かみじま 1 位 2 分 3 9 秒 8 という結果予選の結果で、かみじまチームのみ予選通過、一般準決勝レース第 5 4 レースで 4 位 2 分 4 1 秒 1 8、16 チーム中 14 位となりました。

この結果は他の 4 商船高専 OB チームも参加している中でただ 1 チーム予選突破であったため素晴らしい結果となりました。



大会には柏木同窓会長も今治より駆けつけ応援していただきました。近隣にお住まいの方は是非来年応援または参加にきてください。来年の勝利に向けて年 4 回の練習会も予定しています。多くの皆さんの応援をお待ちしています。



瀬戸内しまの輪イベントでの全船協事業実施報告

5月17日（土）、18日（日）瀬戸内しまの輪イベントの一環として松山三津浜港に帆船日本丸が寄港いたしました。ここで同窓会、学校合同のイベントとして全船協に申請をおこなっていた次世代船員養成、発掘のPRイベントを実施いたしました。帆船日本丸の前にテントを設けて学校のPR活動に協力することで次世代の船乗りの人材確保のための活動です。

今回は全船協よりの補助もあるため同窓会、学校（E46 益崎）と学生のボランティア補助（商船学科5年生岡本君）、同窓会事務局の3人が弓削より現地に出向いて、現地で参加していただいた数人のボランティアOBと一緒に活動を行い約3000人の方にパンフレット等の配布を行い来場者に対応いたしました。



松山支部懇親会開催報告

しまの輪イベントでの松山日本丸寄港と同じ17日土曜日には松山支部での同窓会懇親会も同時に開催されました。

懇親会の前には、松山支部の今岡支部長、柏木会長挨拶、決算報告、学校からの近況報告が行われました。

その後、約2時間の懇親会が開催されました。今回の懇親会は、21名の参加者により全日空国際ホテルにて開催されました。

次回も多くのOBの方のご参加をお待ちしております。



松山支部懇親会

（同窓会副会長 E46 益崎真治）記

本部・支部だより

〈 本 部 〉

14/03/31	第3回理事会(第2回)	14/05/23	ひまわり5訪船(七呂)
14/04/05	海王丸出港式・東京有明(会長・本望)	14/05/25	横浜港カッターレース大会(会長・本望・七呂)
14/04/14	新造練習船大成丸お披露目式(会長)	14/05/26	5商船同窓会長懇談会(於全船協本部)
14/04/15	監査(亀山・蔦両監事)	14/05/28	ビル管理組合理事会(本望)
14/04/16	HTW(STW改称)調査検討委員会(本望)	14/05/29	健保健康管理委員説明会(七呂)
	赤嶺調査役が北極航海経験を語る	14/05/30	平成26年度通常総会及び臨時理事会(於全船協本部)
14/04/17	会報125号印刷発注		総会終了後懇親会(於全船協本部)
14/04/18	平成26年度第1回理事会(総会提案事項の決定)	14/06/02	殉職船員顕彰会理事会(内田・本望)
14/04/21	総会議案書印刷発注		海技教育財団理事長来会理事・評議員交代説明
14/04/23	高専合同ガイダンスのポスター発表(お知らせ欄参照)	14/06/03	役員交代挨拶回り(岩田・及川・内田・本望)
	ビル管理組合理事会(本望)		年金機構算定説明会(佐藤)
14/04/24	日本船用工業会常務理事他来会、情報交換(内田;岩田;本望)	14/06/04	役員交代挨拶回り(岩田・及川・内田・本望)
14/04/30	海事人材プロジェクト・アンケート実施打合せ(富山高専遠藤教授他3名来会)	14/06/05	日本海難防止協会評議員会・理事会(会長)
14/05/01	会報125号及び総会議案書発送(返信用通知表を含む)	14/06/08	鳥羽商船高専同窓会総会神戸(岩田)
14/05/07	ホームページ修正(会報125号、総会通知表掲載)	14/06/10	役員交代挨拶回り(岩田・及川・内田)
14/05/09	大島商船高専同窓会(小松会)総会(会長)	14/06/11	イレブンマリナーズゴルフ大会(岩田)
14/05/12	NPO法人「ふるさとの海を愛する会」(鳥羽同窓会)来会挨拶、		海空運健保算定説明会(佐藤)
14/05/14	第44回戦没・殉職船員追悼式(本部全員)	14/06/12	役員交代挨拶回り・横浜方面(岩田・及川・内田・本望)
14/05/15	商船三井訪問(内田・七呂・及川)意見交換	14/06/13	海事人材プロジェクト運営委員会 広島(及川)
14/05/16	殉職船員顕彰会監査(本望)		船員奨学生選考委員会(七呂)
	海事人材育成プロジェクト(及川)	14/06/20	船員災害防止協会関東支部委員会(七呂)
	横浜海洋福祉協会総会(内田・七呂)		日本海難防止協会理事会・総会(会長)
	海技教育財団理事会(内田)		内航総連総会後懇親会(及川)
14/05/20	宮崎海洋高校作本教諭来会情報交換	14/06/26	ビル管理組合総会(本望)
	船長協会総会後懇親会(内田・本望・七呂)	14/06/27	関東船員災害防止連絡会議 関東運輸局(七呂)
	NPO法人SEILA総会(本望)	14/07/02	(独)国立高等専門学校機構 竹橋オフィス挨拶(岩田・及川)
	厚岸水産高校校長来会情報交換	14/07/04	海事人材プロジェクト運営委員会・大阪(赤嶺・及川)
14/05/21	日本サバイバルトレーニングセンター来会情報交換	14/07/06	商船系高専(商船学科)合同進学ガイダンス・横浜 氷川丸(赤嶺、富岡、及川、七呂)
14/05/22	日本船舶機関士協会総会後懇親会(内田・七呂)	14/07/14	銀河丸船内で実習生143名対象に特

別講義 タイトル「職場の安全とヒューマンエラー」(横浜港 七呂)

14/07/16 銀河丸船長・機関長来会 ホノルル・シンガポール向け遠洋航海挨拶

19時、(初日 14時～17時)

会場：東京芸術劇場 5F、展示ギャラリー1、豊島区西池袋 1-8-1、

< 横浜 >

1、諸会合等

- (1)第 45 回 一社) 全日本船舶職員協会支部総会開催、後懇親会 5/16 計 1 回
- (2)平成 26 年度 第回全船協横浜支部幹事会 4/24, 計 1 回
- (3)その他、三役会・懇親会 4/16, 5/9, 計 2 回

2、具体的活動

- 14/04/01 日本丸メモリアルパーク全体警備、再稼働 4 周年
- 14/04/16 平成 26 年度合同三役員会 (含む海福協予算編成会議)
- 14/04/22 第 31 回横浜港カッターレース組み合わせ・抽選会
- 14/04/24 平成 26 年度全船協横浜支部第 1 回幹事会
- 14/05/02 一社) 横浜振興協会主催「H26 年度横浜市港湾局予算概要」講演会
- 14/05/10 日本丸ガイド平成 26 年度総会・連絡会
- 14/05/13 平成 26 年海洋会横浜支部春季懇親会
- 14/05/14 第 44 回戦没・殉職船員追悼式典
- 14/05/14 第 31 回横浜港カッターレース第 2 回競技委員会
- 14/05/16 平成 26 年度第 45 回横浜支部・第 31 回海福協との合同総会開催
- 14/05/29 第 68 回 (公社) 横浜港防犯協力会 通常総会
- 14/06/01 日本丸ガイド講演会「帆船日本丸の修好百周年記念航海を語る」
- 14/06/02 平成 26 年度横浜港港湾労働者供養祭
- 14/06/12 平成 26 年度第 1 回公益財団法人帆船日本丸記念財団評議員会
- 14/06/18 平成 26 年度横浜港湾福利厚生協会 通常総会
- 14/06/30 平成 26 年度第 1 回東京湾水先区水先人会 業務運営協議会

3、特記事項

- ① 第 29 回「日本の海洋画展」、併設展：「海に生きる者の絵画展」
8 月 4 日 (月) ～8 月 10 日 (日) 午前 11 時～

< 神戸 >

- 14/04/16 ビル理事会
- 14/04/18 本部 理事会
- 14/04/21 定例会 出席者 7 名
- 14/04/23 練習船「大成丸」処女航海神戸寄港訪船 福地、森
- 14/05/11 神戸港カッターレース
- 14/05/15 写真展「波濤を超えて」セレモニー出席
- 14/05/16 神戸港 みなと繁栄安全祈願祭
合同進学ガイダンスパンフレット配布、筒井台中、葺合中、布引中、神戸生田中
- 14/05/19 定例会 出席者 4 名
合同進学ガイダンスパンフレット配布、原田中、渚中、湊川中、鶴台中
- 14/05/20 合同進学ガイダンスパンフレット配布、港島中
- 14/05/23 ビル理事会
- 14/05/30 本部 総会
- 14/06/04 帆船「みらいへ」船長募集の件で神戸大学大学院
海事科学研究科 瀧 真輝氏 来室
- 14/06/09 帆船「みらいへ」船長募集の件グローバル人材育成推進機構 小原理事、影山氏、迫田氏来室
- 14/06/11 帆船「みらいへ」船長募集の件 山友汽船(株) 岩江顧問と打合せ
- 14/06/13 本部岩田会長来神、関係先挨拶回り
- 14/06/16 帆船「みらいへ」船長募集の件 山友汽船、グローバル人材育成推進機構との打合せ
- 14/06/25 定例会 出席者 5 名、神戸海難防止研究会 懇親会
- 14/06/26 ビル臨時総会

お知らせ

◇ 第40回戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展

戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展とは、故大久保一郎氏が太平洋戦争中、生き残った船員から聞き取った話を元に戦時徴用船の遭難の様子を描いた画を展示するものです。大久保画伯は、我が国最初の船舶画家であり、昭和57年に遺作37点が発見され、これらを修復して画展が開催され今回40回目を迎え、次の通り開催されます。

開催日時 平成26年8月25日（月）～8月31日（日）
10時00分～18時00分まで
初日の8月25日（月）は13時00分に開場し
最終日の8月31日（日）は15時00分に終了します。

会場 兵庫県民アートギャラリー 2階 中展示室
(兵庫県民会館内)
〒650-0011 神戸市中央区下山手通4-16-3

交通 ◇地下鉄山手線「県庁前駅」下車
東出口1から右へ50m
◇JR神戸線 「元町駅」下車・北へ徒歩約7分
◇阪神電車 「元町駅」下車・北へ徒歩約7分
◇阪急神戸線 「花隈」下車・北へ徒歩約15分



魚雷攻撃により棒立ちとなって沈没する
「ぶら志る丸」

入場料 無料

主催 公益財団法人 日本殉職船員顕彰会
東京都千代田区麴町四丁目5番地
TEL : 03-3234-0662
URL : <http://www.kenshoukai.jp>



兵庫県民アートギャラリー

◇ 第 29 回 日本の海洋画展

現代日本画壇の海洋画を一同に集めて次の通り開催されます。

- : 場 所 北九州市立美術館・本館 市民ギャラリー
- : 開催日時 2014年9月2日(火) ~ 9月7日(日)
- : 開催時間 9時30分 ~ 17時30分(入場は、17時まで)
- : 主催 (一財)全日本海員福祉センター TEL 03-3475-5391 URL <http://www.jss01.jp>
- : 共催 北九州市立美術館、(一社)全日本船舶職員協会、(一社)海洋会、(一社)日本船長協会、(一社)日本船舶機関士協会、その他

◇ 第 27 回 写真展「波濤を越えて」

1. 展示内容 : 全紙・全倍サイズの約 80 点の写真パネルを屋外展示。
各写真には説明キャプションも併せて展示。
2. 開催日時 : 平成 26 年 10 月 3 日(金) ~ 10 月 13 日(月) 10 時~17 時
※最終日(10 月 13 日)は 15 時まで(雨天強風時は中止することあります。)
3. 会 場 : 横浜市中区山下公園内の特設会場
4. 催しの目的 : 外国航路の船乗りが撮らえた世界の海・街・人々の写真を通して、自然の慈しみ世界の人々との出会いのすばらしさを広く紹介します。また、環境問題についても語りかけます。
5. 主 催 : 第 27 回「波濤を越えて」実行委員会
6. 入 場 料 : 無料
7. 過去の実績 : 横浜にて 26 回及ミニ写真展を含め日本全国の約 1350 会場以上で開催。
また、ロシア、フィリピン、中国、ベトナム、マレーシア、インド、ノルウェー、モンゴル、インドネシア、スウェーデン、イギリス、ガーナ、カナダの海外においても開催
8. 後 援 : 横浜市教育委員会、(公財)日本海事広報協会、全日本海員組合、(一社)海洋会、(一社)全日本船舶職員協会、(公財)帆船日本丸記念財団、日本海事新聞社、神奈川新聞社、t v k (テレビ神奈川)(順不同)

平成 27 年度 一級水先人養成支援対象者 九期生 募集中

(一財)海技振興センター
日本水先人会連合会

日本人船員が大きく減少したことにより水先人になる者も減少し「水先人不足」が生じています。水先人募集に関し次のような機関のホームページに募集に関する事項が掲載されていますので、ご覧下さい。

1. 日本水先人会連合会 <http://www.pilot.or.jp/howto/index.html>
2. (一財)海技振興センター <http://mhrij.org/>

会員の大半が応募資格を有する一級水先人に関する募集要領を紹介します。

一級水先人募集要項

- ・一級水先人養成開始時期

平成 27 年（西暦 2015 年）4 月

- ・応募資格

応募するには、次の要件を満たしていることが必要です。

1. 昭和 28 年（西暦 1953 年）4 月 2 日以降生まれであること。
2. 三級海技士（航海）、又は、これより上級の海技免許を保有し、所定の乗船履歴（以下の※）を有していること。

※2 年以上、船長として、総トン数 3 千トン以上の船舶（平水区域を除く）に乗り組んでいたこと。

※水先人養成課程入学までにそれらの履歴を取得する見込みも含む。ただし、船舶所有者等の保証書等の提出を必要とする。（水先人養成課程入学までに当該履歴を持ってない場合は選考を取り消されます）

※乗船履歴に係る「総トン数」は以下のとおりとする。（申請された総トン数が水先法施行規則第一条の四の乗船履歴要件の数値に近い場合は、申請受理の審査を別途要する場合があります）

- ・国際トン数証書を持つ船舶での総トン数は、国際総トン数。
- ・国際トン数証書を持たない船舶での総トン数は、国内総トン数。

3. 水先法第 6 条に規定する以下の欠格事項に該当しないこと。

- ・日本国民ではない。
- ・禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又はその執行を受けることがなくなった日から 5 年を経過していない。
- ・海技士の免許又は小型船舶操縦士の免許を取り消され、取消しの日から 5 年を経過していない。
- ・船長又は航海士の職務につき業務の停止を命ぜられ、その業務停止の期間中である。

- 船長又は航海士の職務につき 3 回以上業務の停止を命ぜられ、直近の業務の停止の期間が満了した日から 5 年経過していない。
- 水先人の免許を取り消され、取消しの日から 5 年を経過していない。

4. TOEIC スコアが 500 点程度以上であること。

5. 一募集への応募からその合格発表（当募集要項に掲載の結果発表日）までの間、他の級、又は、他の期の水先人養成支援対象者の募集に重複した応募にならないこと。

・ 募集人数 及び 応募状況平成 27 年度一級水先人養成支援対象者（九期生）の募集水先区及び募集

募集水先区数合計は 17 区、募集人数合計は 47 名。

※ 定員に達しない場合であっても、追加募集は実施しません。

水先区名		募集人数
1	釧路	1名
2	室蘭	1名
3	釜石	1名
4	秋田船川	2名
5	小名浜	1名
6	東京湾	8名
7	七尾	2名
8	伊勢三河湾	6名
9	尾鷲	1名
10	大阪湾	4名
11	内海	9名
12	関門	5名
13	博多	1名
14	長崎	1名
15	島原海湾	2名
16	細島	1名
17	那覇	1名
合計	17 水先区	47名

・ 登録水先人養成施設

今回、海技振興センターが募集する水先人養成支援対象者は、登録水先人養成施設である海技大学校（水先教育センター）に入学し、水先人養成課程を履修することとなり、その際、改めての入学試験等は不要です。

・ 応募期間

平成 26 年 6 月 23 日（月）から 平成 27 年 1 月 12 日（月）まで。

・ 応募方法

一般財団法人 海技振興センターのホームページにある平成 27 年度一級水先人要請支援対象者(九期生)に記載されている応募方法をご覧ください。

<http://mhrij.org/水先人養成支援/募集案内・応募方法/H27年度一級水先人養成支援.aspx>

暑中お見舞い申し上げます

一般社団法人 全日本船舶職員協会

会 長 岩田 仁、 副会長 赤嶺 正治、富岡 栄一郎、 専務理事 及川 武司、

理 事 相川 康明（横浜支部長）、大賀 英朗、加山 文治、小池 信雄、七呂 光雄（本部事務局長）、
田中 三郎、福地 赳雄（神戸支部長）、松見 準、三輪 史郎、望月 正信、山田 貢、

監 事 亀山 道義、渡辺 英利

関門支部長 山本 德行

本部 事務局長 佐藤 道子、横浜支部 事務局長 小池、美知代、神戸支部 事務局長 森 康子、

会費納入者御芳名 (敬称略)

平成26年4月15日～平成26年7月28日

4月

個人

(9,600円)

渡邊 拓弥
大澤 亮祐
三浦 稔
藤崎 繁

5月

個人

(9,600円)

藤本 健太
矢野 芳秀
増田 信

6月

個人

(9,600円)

雲林院 記大
七呂 光雄

(4,800円)

池田 昴史

共栄タンカー

(4,800円)

石田 健一郎
浦田 建
佐藤 好司
外谷 正彦
中野 寛士

山友汽船

(9,600円)

石屋 安生
板谷 拓実
岩江 成徳
川潤 仁
菊地 栄輝
北島 章市
高梨 満雄
多田 幸悦
寺本 達夫
長嶋 大介
中山 修作
名木 彰平
西川 勝久
仁藤 多喜男
島山 進
濱本 邦夫
前田 重信
松ノ尾 明
松林 祐馬
松本 三與

三浦 宗義
村岡 稔
望月 正信
山田 和久

出光タンカー

(9,600円)

有馬 功人
城本 恵市
瀬川 昌幸
瀬戸口 義典
高野 清文
中坂 勝史
野間 虎三
藤井 秀昭
藤岡 誠

大阪湾水先人会

(9,600円)

荒木 新一
池上 英二
内海 真吾
大下 和義
大城 喜八郎
金山 聡
川内 伯俊
香田 比呂志
小山 道夫
齋藤 彰
佐尾 治作
鹿野 秀治
高垣 政治
中島 敏行
平野 雄一
堀 眞琴
南方 日出一
源 保
森田 任紀
山下 公弘

7月

終身会員

(75,000円)

斎藤 寿一

(60,000円)

市村 武治
斎藤 正

(50,000円)

出口 彰男
半田 康博
吉本 公則

個人

(19,200円)

神谷 洋

(10,000円)

柿山 朗
武村 泰宏

(9,600円)

東野 友和
足立 雅俊
阿部 碩志
安部 亮志
飯野 実
石原 弘通
伊藤 竜未
井波 稔
井上 虎男
伊庭野 紀弘
今村 義幸
岩藤 薫
鶴飼 幹夫
臼井 栄三郎
内田 成孝
内野 光博
内山 弘孝
大江 俊洋
大西 正則
大野 光久
大宮 博孝
岡崎 哲也
岡田 紘次郎
岡田 卓三
岡本 篤
小木曾順務
沖本 和也
越智 敦浩
加世 和彦
片山 清
加藤 郁夫
加藤 航
金澤 輝雄
亀山 道義
川崎 敏夫
川田 貴裕
川端 一人
北本 明秀
木村 正助
国武 千歳
久保 岳人
久保田 博公
熊井 秀樹
桑田 大輝
小池 信雄
厚東 貞治
河野 理博
小田部 誠一
小林 悠
小松 和夫
近藤 武
坂部 正憲
坂本 聡
篠島 司郎
佐野 隆史
佐野 博
澁谷 照通
島田 宏
清水 貢
下野 紘史
白石 整司
末田 亮介

杉山 秀光
鈴木 晴敏
鈴木 裕斗
須浪 英人
千道 英雄
曾我 隆弘
曾根 邦弘
埤 智子
高岡 俊輔
高倉 邦雄
高橋 尚徳
瀧口 怜
武田 雄三
竹中 五雄
多田 光男
舘 満治
田中 健二
田中 賢治
田邊 正彦
谷口 誠
真村 光弘
薦 正昭
津田 道夫
寺角 亨
富山 貴史
内藤 真世
永井 俊彦
中居 豊平
中島 章
中瀬 和典
中藤 誠三
中村 光義
西 泰浩
西村 臣正
西村 陽造
西山 貴治
新田 征志郎
野村 浩久
畑 辰幸
畑内 康孝
花澤 利男
濱尾 弘宣
濱口 澄夫
濱口 芽以
濱野 眞砂美
早柏 正幹
原 正純
原田 博之
針生 あや
日朝 俊哉
平野 晶都
藤井 一洋
藤田 和史
藤中 恒夫
藤本 真之
二宮 匠
古本 真澄
堀田 規安
前田 安紀
牧野 博久
増島 忠弘
町 裕次
松田 伸一

松田 孝
松見 準
松村 武朗
三浦 武
南 清和
峯 浩
宮坂 昌弘
宮武 弥希
村田 一明
森 淨茂
森 昭太
森 敬行
森木 孝男
森田 啓二
森田 竜矢
森成 哲也
安岡 征治
安田 哲士
八角 操
山岡 啓二
山口 守
山田 貢
山本 一成
結城 勇
横山 良一
吉岡 勉
吉澤 勇
吉本 茂正
力武 敏美
若宮 一三
渡辺 隆彦
渡部 英利
綿森 繁樹

商船三井

(9,600円)

浅田 幸一
朝日 健二
安達 勇治
阿部 誠
栗田 和彦
伊賀 勇治
伊藤 浩也
岩谷 宏
上野 昇
宇佐見 航一
梅田 尚宏
上井 博明
枝次 真治
大宅 理志
岡田 稔
沖原 邦彦
片渕 敏之
金子 大輔
亀山 栄二
河本 優
木元 孝憲
栗原 誠
越田 亘
児玉 賢志
西條 和政
酒井 勇樹
佐々木 翔輝

柴山 隆史
末次 徳明
杉野 智
鈴木 直也
瀬川 尚吾
染矢 真行
高橋 悠
高本 和雄
田川 寛大
滝浦 文隆
竹田 英樹
竹原 敏宏
舘山 広利
田村 孝夫
綱島 毅
寺西 尚平
徳山 公彦
中尾 拓弥
中川 敏昭
中塚 達也
新田 真一
二ノ倉 彰一
萩原 栄二
迫間 利紀人
橋口 靖生
八田 真紀生
濱田 雅秀
濱田 祐司
濱松 直也
早柏 隆太
平木 恵介
廣村 匡俊
福井 栄
福井 悟
藤井 仁
藤川 政良
間島 崇夫
松下 薫
溝渕 真太郎
森光 誠
柳井 孝之
山岡 宣之
山口 智彦
山下 育孝
山本 和之
山本 真丈
百合野 剛
吉見 慶
吉村 英昌
漁野 智洋
和田 雅人
渡邊 真史

清水水先人会

(9,600円)

中村 政一

海の図書室

～新刊紹介～

内航海運

森隆行 編著

石田信博、永岩健一郎、松尾俊彦、石黒一彦、李志明 著

業界の課題を多角的に分析

本書は、流通科学大商学部教授の森隆行氏が代表を務める「内航海運研究会」の研究者が、カボタージュ(国内貨物輸送の自国籍船限定)制度、モーダシフト、内航フイードといったテーマについて、論じている。



国内の貨物輸送の約4割を担う内航海運は、素材産業関連貨物の8割の輸送を担うインフラ産業である。しかし、オイル・ショック、海外への産業シフト、リーマン・ショックなどの内航海運を取り巻く環境は変化している。

本書では、専門家である研究者が内航海運の概要、役割、「どういった課題があるか」などをわかりやすく解説している。

内航海運が生活に欠くことのできないインフラであることを紹介し、物流産業が直面する問題が多角的な視点から浮き彫りにしている。

A5版、180ページ(索引、参考文献5ページ)

定価2,300円(税別)

発行所 晃洋書房

〒615-0026 京都市左京区西院北矢掛町7

電話 075-312-0788

咸臨丸の絆

— 軍艦奉行木村摂津守と福沢諭吉

宗像善樹 著

福沢諭吉と木村摂津守喜毅(芥舟)の深い親交は終生続いた。

福沢諭吉は木村摂津守喜毅に願い出て咸臨丸に乗船でき、アメリカへ渡れたことから、喜毅を終生「木村様」として報恩の念を持ち続け、木村は四歳年下の福沢諭吉の能力を認め終生「先生」と敬った。

もし、木村喜毅が明治新政府の要請に応じて出仕していれば、二人の間の逸話も後世にいろいろと紹介されたことだと思う。

(「あとがき」より抜粋)

福沢諭吉は木村摂津守の計らいにより咸臨丸に乗船することが出来た。

このときアメリカの地を踏まなければ、後の福沢はなかったかもしれない。本書はあまり知られていない咸臨丸での二人の交流に焦点を当てるとともに、下船後も続いた深い親交について、木村家以外の門外漢では知り得ない貴重な資料を駆使して語っている。

四六判・256頁・定価(本体1,600円+税)

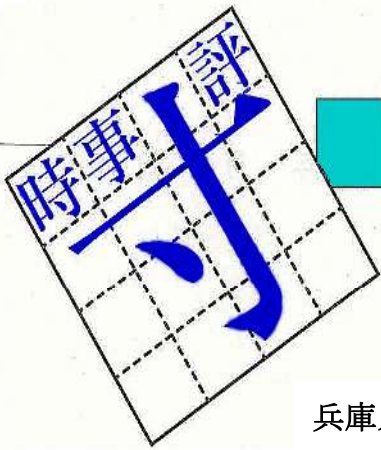
発行=海文堂出版株式会社

〒112-0005 東京都文京区水道2-5-4

TEL:03・3815・3292 FAX:03・3815・3953

<http://www.kaibundo.jp/>





兵庫県議の号泣会見と 議場の空洞化

西宮市選出の兵庫県議が政務活動費の使途に記者会見で説明がつかなくなり泣き出す姿がテレビを通し全国に流れた。その異様さに外国メディアまで飛びつき大の男の号泣姿は世界にまで広がった。

なぜこんな人が選出されるのか？

このような県議を選ぶ西宮市民の政治感覚はどうなっているのか？

いろいろと疑問は湧いてくる。

しかし、改めて新聞、週刊誌、TVで交わされている政治評論家や元議員先生等のコメントから類推すると本会議場での議論の空洞化に原因があるようだ。

質問議員も質問原稿の棒読み、答弁者も答弁原稿を読むだけ、まだ質問されていない事項まで先読みし議事録から削除されたケースもあるらしい。

本会議の議論が台本でのやり取りでは迫力も欠けるし、退屈まぎれに品位の欠けるヤジが飛ぶのもうなずける。

議員の質の低下も当然といえよう。

これを機会に本会議場が劇場から討論の場へと本来の姿に復帰することを期待したい。

HI 記

表紙写真 大成丸 (航海訓練所提供)

これまで二代目の大成丸に代わって今年3月から就航した。今までの2隻の大成丸はタービン船であったが、本船はディーゼル機関となった。このため内燃限定のない三級海技士(機関)を取得する為に必要な練習船であったが、新たな課題が生じた。また、商船系高専、商船系大学の学生だけでなく、海上技術短大、海上技術学校の学生・生徒も航海訓練所で実習を行っており外航海運を目指す若者だけでなく内航海運を目指す若者にも対応した船が必要となり、本船は内航船として建造された。その為今までの練習船と異なってブリッジも甲板上の中央部に配置されており、内航船の主要航路を航行しながら訓練を行うため水線下船体は1000トン型内航貨物船と同程度の大きさになっている。エンジンは、低燃費、低公害(IMO(世界海事機関)のNOx規制をクリア)で、環境にやさしく、内航船で広く採用されている3,000kW(約4,000馬力)・6気筒の4サイクルディーゼルエンジン1基を搭載している。

編集後記

6月から本部常勤者も役員交代で2名が交代しました。昨年のこの時期にいたのは4人中小職1名だけとなり、すっかり初心者だけの編集作業となりました。122号からコスト軽減のため印刷所を変更した結果、レイアウト等印刷以外の作業は自ら行わなければならなくなり、1年4ヶ月が過ぎてようやく慣れてきたという時に今回の交代となりました。このような状況で何とか作り上げた会報が、今回の会報です。

細部を見ればおかしなところが一杯ある会報で見にくいことがあることをお許しください。(MS記)

全船協 No.126 夏季号

平成26年8月 発行

◇発行所・一般社団法人 全日本船舶職員協会 ◇編集兼発行人 及川 武司
〒101-0053 東京都千代田区神田神保町2-2-34 千代田三信ビル 8階
TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653

E-mail: zensenkyo@muf.biglobe.ne.jp URL: http://www5b.biglobe.ne.jp/~zensenk/

Tokyo Bay Licensed Pilots' Association

東京湾水先区水先人会

会長 石橋 武

本部 〒231-0023 横浜市中区山下町1番2 パイロットビル 代表 TEL (045) 650-3180 FAX(045) 663-4811
オペレーション部 TEL (045) 681-4081 FAX(045) 681-4090
URL: <http://www.tokyobay-pilot.jp> TEL (045) 681-4091

東京事務所 〒108-0022 東京都港区海岸3丁目33番17号 TEL (03) 3453-1691 FAX(03) 3453-4025
千葉事務所 〒260-0023 千葉市中央区出洲港15番1号 TEL (043) 242-6391 FAX(043) 248-2553
木更津事務所 〒292-0836 木更津市新港8番5号 TEL (0438) 36-0700 FAX(0438) 36-4696
川崎事務所 〒210-0869 川崎市川崎区東扇島38番地1 602号室 TEL (044) 266-8877 FAX(044) 266-8877
横須賀事務所 〒239-0831 横須賀市久里浜8丁目10番6号 TEL (046) 835-5709 FAX(046) 835-4977

田子の浦水先区水先人会

会長 大久保 博史

副会長 漆 畑 忠雄

〒416-0936 静岡県富士市中河原28-2
電話 (0545) 33-0734

伊勢三河湾水先区水先人会

合同事務所
〒475-0831 愛知県半田市11号地1番5
電話 (0569) 23-0713

名古屋事務所
〒455-0033 愛知県名古屋市港区港町1番9号
電話 (052) 654-1281

関門水先区水先人会

会長 中村 和義

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目4番24号
電話 (093) 332-2384(代)

鹿島水先区水先人会

会長 久 郷 良夫

〒314-0052 茨城県神栖市居切1909-16
電話 (0299) 82-5515
FAX (0299) 82-6205

鹿児島水先区水先人会

会長 今村 義幸

副会長 松下 忠夫

水先人 橋之口 勉

〒891-0122 鹿児島市南栄5丁目10-8
電話 (099) 260-7707
FAX (099) 260-7717

清水水先区水先人会

会長 中川 三夫

副会長 中村 政一

〒424-0922 静岡市清水区日の出町10番80号
清水マリンターミナル3F
電話 (054) 352-2191
FAX (054) 351-0527

海事関係の皆さま

各種印刷・出版物の企画・制作は

業界知識と経験豊富な弊社まで、ぜひご一報ください。

ご予算、ご希望に応じて対応させていただきます。

日本海事新聞社 企画事業部

〒105-0004 東京都港区新橋5-19-2 新橋森ビル
Tel.03-3436-3224 Fax.03-3436-3273

■ センポスの宿・健康診断 ■



一般財団法人

船員保険会

会長 坂野 泰治

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6
SEMPOSビル 6・7階
電話 (03) 3407-6061 FAX (03) 3407-6597
URL <http://www.sempos.or.jp>

暑中お見舞い申し上げます

咸臨丸の絆 軍艦奉行 木村撰津守と福沢諭吉

宗像善樹 著



福沢諭吉は木村撰津守の計らいにより咸臨丸に乗船することが出来た。このときアメリカの地を踏まなければ、後の福沢はなかったかもしれない。本書はあまり知られていない咸臨丸での二人の交流や、下船後も続いた深い親交について焦点を当てている。

福沢が何よりも感動したのは、木村が主従ではなく、人間として同じ目線で話してくれることであった。だから福沢は、船酔いで苦しむ木村に誠心誠意仕えた。そしてそれが、互いに、「木村さま」、「先生」と呼び合う仲にまで昇華し、太い「絆」となって二人を結びつけたのである。本書は、その「絆」を木村家以外の門外漢では知り得ない貴重な資料を駆使して、物語っている。(解説より)

元東京商船大学教授・元帆船日本丸船長 橋本進 氏

四六判 256頁 定価(本体1,600円+税)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4
TEL 03-3815-3292 FAX 03-3815-3953

海文堂出版

<http://www.kaibundo.jp/>
e-mail: hanbai@kaibundo.jp



ようこそ美食のホテル
マリナーズコート東京へ

レインボーブリッジをはじめとする東京湾の素敵な景観とともに
ごゆっくりおくつろぎいただけます。

HOTEL
Mariners' Court TOKYO

ホテルマリナーズコート東京
〒104-0053 東京都中央区晴海 4-7-28 tel.03-5560-2525 (代表)

海員会館ご案内

エスカル 釧路 (0154) 22-3998	ナビオス 横浜 (045) 633-6000
エスカル 室蘭 (0143) 22-7009	エスカル 神戸 (078) 341-0112
川崎海員会館 (044) 233-5896	エスカル 戸畑 (093) 881-0979
エスカル 横浜 (045) 681-2141	

<http://www.jswa.or.jp>

一般財団法人 日本船員厚生協会 電話 (044) 221-7210
どなたもご利用いただけます

求人情報

(一財)海技振興センターと日本水先人会連合会では、水先人に関する養成や募集を行っています。
本誌の「お知らせ」を参照ください。